

令和7年度

全国学力・学習状況調査結果

令和7年9月
小樽市教育委員会

令和7年度

全国学力・学習状況調査結果

令和7年度全国学力・学習状況調査は、小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒及び市内29校を対象に実施されました。

小樽市教育委員会では、令和元年度より、本市の子どもたちの課題解決のための「小樽授業づくりの5つのSTEP!!」を示し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図るとともに、学習意欲の向上と学習習慣の確立をめざし、各種研修会などを通じて指導内容や指導方法の工夫改善に努めております。

また、本調査は子どもたちの学力・学習状況を把握する大切な資料の一つであると捉えており、調査結果から見えてくる課題等については、学校間の序列化や過度な競争につながらないように配慮しながら、地域、保護者の皆さんに説明する責任があるものと考えます。

本書では、調査結果のポイントや児童生徒質問調査結果と平均正答率及びIRTスコアとの相関を示しております。今後は、「小樽市小中学校学力向上検討委員会」を開催し、授業改善の方策についての協議を通して改善策を示し、学力向上の一層の充実を図ってまいります。

I 調査について

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年・中学校第3学年の全児童生徒

3 調査の内容

(1) 教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれ次の①と②を一体的に問うものである。また、出題形式として、記述式の問題を一定割合で導入している。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(2) 質問調査

児童生徒質問調査	学校質問調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査

4 調査実施日 令和7年4月17日(木)

※ 中学校理科は令和7年4月14日(月)～4月17日(木)の実施期間のうち、各学校の希望に基づき事前に日程を調整の上、指定された日程で実施。

5 4月17日(木)に調査を実施した学校・児童生徒数

	学校数(校)	児童生徒数(人)
小学校	17	570
中学校	12	619
合計	29	1,189

※ 上記期日以外に調査を実施した児童生徒は集計には含まれていない。

II 教科に関する調査結果等について

1 教科に関する調査

＜令和7年度調査 各教科の平均正答率(%)及び平均正答数(問)＞

		小学校			中学校		
		国語	算数	理科	国語	数学	理科
平均正答率	小樽市	65	54	54	53	44	502
	北海道	65	55	56	54	47	505
	全国	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503
平均正答数	対象問題数	14	16	17	14	15	6
	小樽市	9.1	8.6	9.1	7.4	6.6	3.0
	北海道	9.2	8.8	9.6	7.6	7.0	3.0
	(北海道との差)	(-0.1)	(-0.2)	(-0.5)	(-0.2)	(-0.4)	(±0)
	全国	9.4	9.3	9.7	7.6	7.2	2.9
	(全国との差)	(-0.3)	(-0.7)	(-0.6)	(-0.2)	(-0.6)	(+0.1)

※平成29年度から、小樽市及び北海道の平均正答率については文部科学省から整数値で結果が提供されていますので、整数値で結果を表示しています。

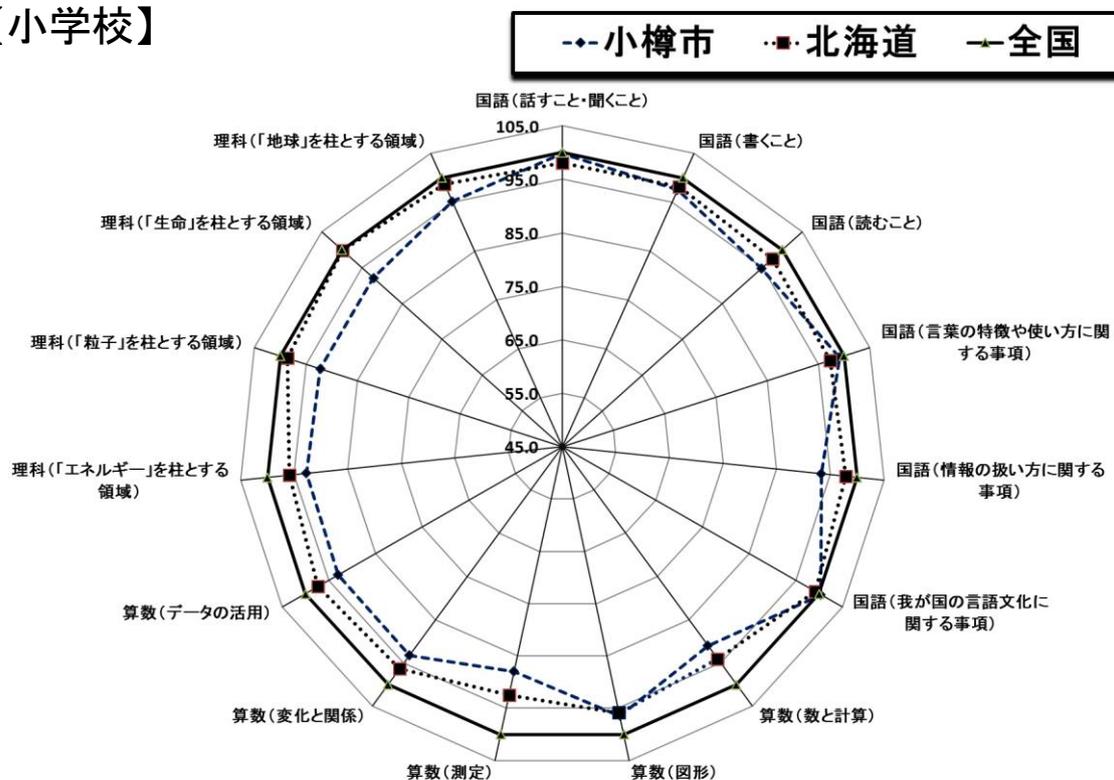
※中学校理科においてはIRTスコアを表示しており、平均正答数における対象問題数については、全問題数26問のうち、全ての対象生徒が解いた共通する問題である6問について集計しております。

※本資料で取り扱われている「北海道」及び「全国」とは、全て公立小中学校のことを指します。

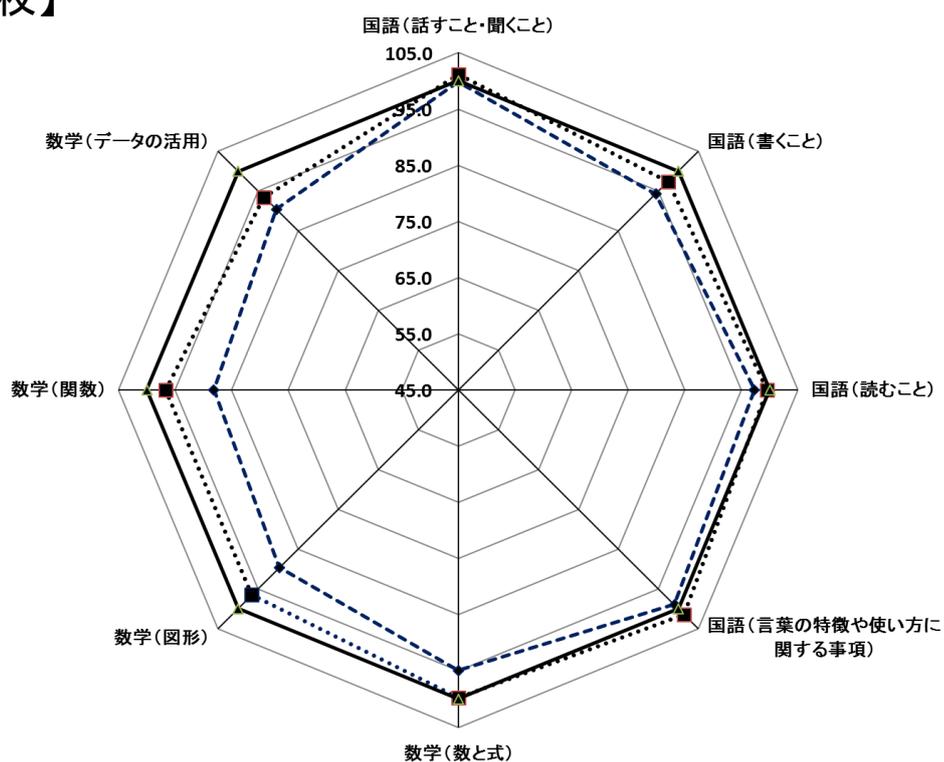
2 令和7年度全国学力・学習状況調査結果の各領域等の状況

※数値は、全国の平均正答率を100とした場合の観点別の達成の状況を表しており、「それぞれの平均正答率÷全国の平均正答率×100」で算出しております。
 ※中学校理科は、文部科学省から各領域等の状況に係る結果が提供されていません。

【小学校】

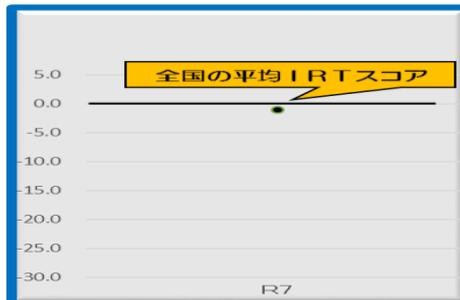
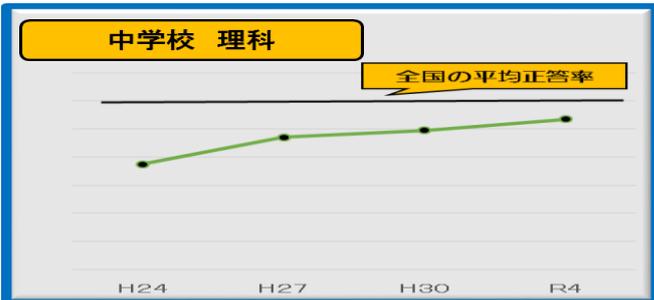
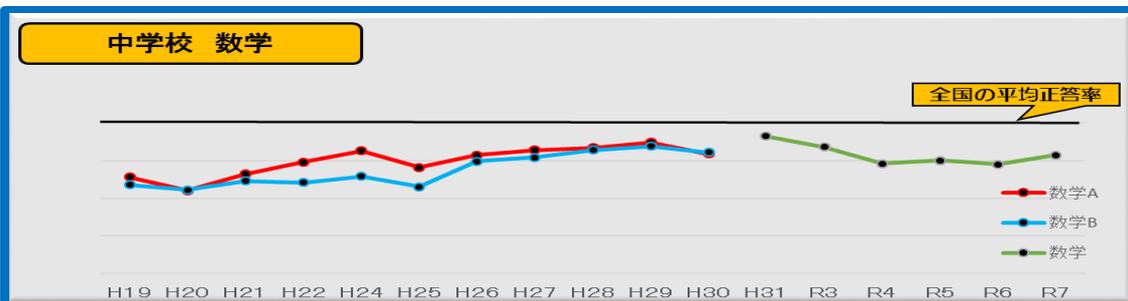
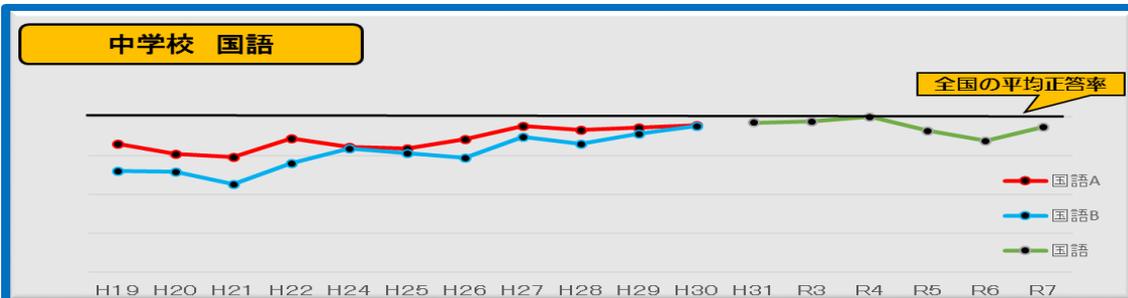
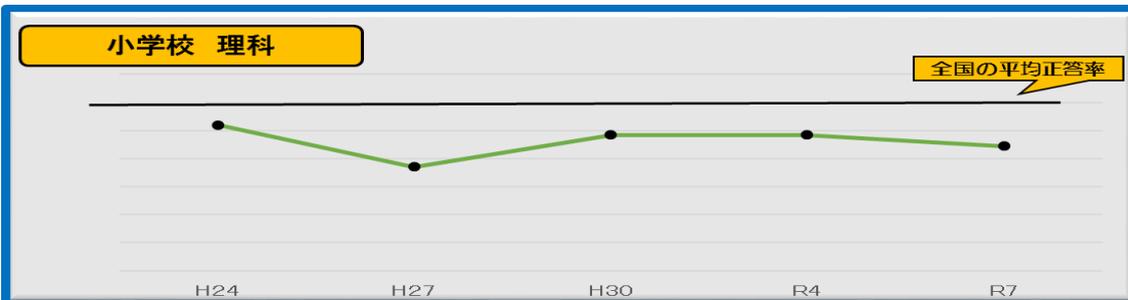
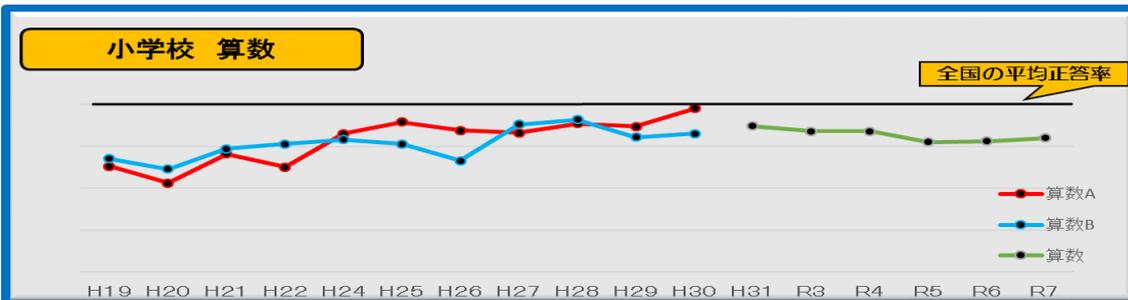
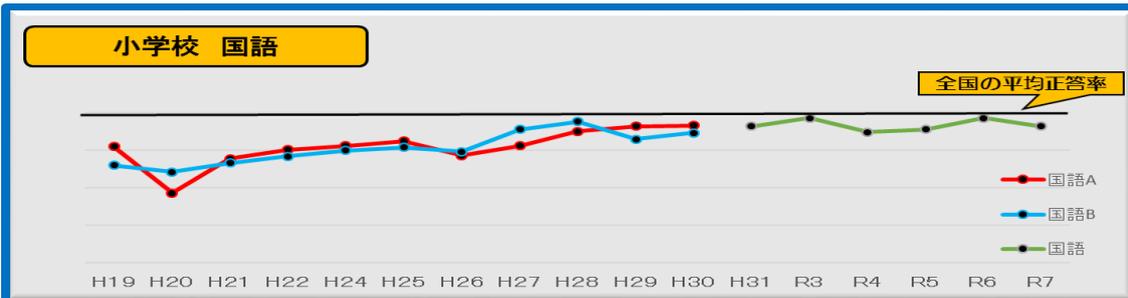


【中学校】



3 全国の平均正答率との差の推移

※全国の平均正答率と小樽市の平均正答率（中学校理科はR7から平均IRTスコア）との差を折れ線グラフで表しております。なお、平成31年度からは、AB問題の区別がなくなりました。



小学校国語

【平均正答率】

	児童数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
小樽市	569	9.1 / 14	65
北海道	34,203	9.2 / 14	65
全国	936,137	9.4 / 14	66.8

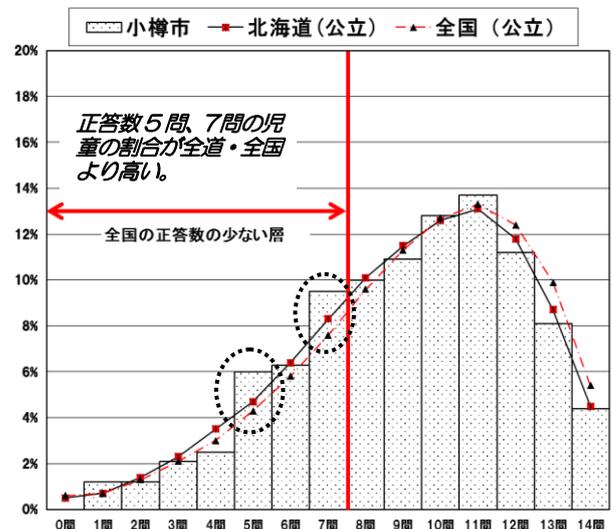
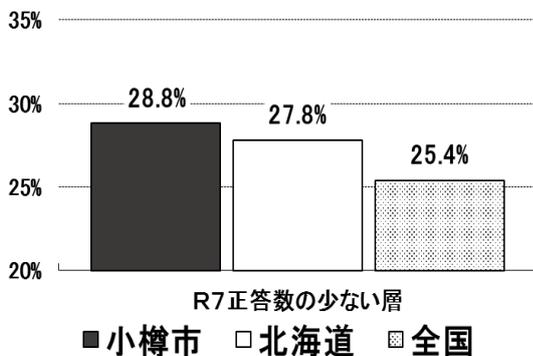
【分類・区別集計結果】

※76.2は、全国平均以上
下線は、全道平均以上

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			小樽市	北海道	全国
知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方 に関する事項	2	<u>76.2</u>	74.8	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する 事項	1	58.9	61.8	63.1
	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	1	81.5	80.6	81.2
思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	<u>66.2</u>	65.0	66.3
	B 書くこと	3	67.8	68.3	69.5
	C 読むこと	4	54.5	56.1	57.5

【「正答数分布状況」及び「全国の正答数の少ない層・多い層に含まれる児童の割合」】

正答数の少ない層（正答数7問以下）に含まれる児童の割合が28.8%で、全国と比べ3.4ポイント多い。また、正答数の多い層（正答数12問以上）に含まれる児童の割合は、23.7%で、全国と比べ、4.0ポイント少ない。



【問題別調査結果の概要】（◇正答率が高い問題 ◆正答率が低い等課題がみられる問題）

- ◇ 「【インタビューの様子の一部】で登場人物が傍線部のように発言した目的として適切なものを選択する」問題（第5学年及び第6学年「話すこと・聞くこと」）は、72.2%の正答率（全国は71.8%）です。[大問1三（1）]
- ◇ 「登場人物が手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する」問題（第5学年及び第6学年「書くこと」）は、80.8%の正答率（全国は81.8%）です。[大問2二]
- ◇ 「【資料】を読んで思い出した経験を通して、登場人物が気付いたこととして適切なものを選択する」問題（第5学年及び第6学年「我が国の言語文化に関する事項」）は、81.5%の正答率（全国は81.2%）です。[大問3一]
- ◆ 「【資料】を読み、登場人物のメモの空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する」問題（第5学年及び第6学年「読むこと」）は、47.6%の正答率（全国は51.3%）です。[大問3二（2）]
- ◆ 「話し合いにおける登場人物の発言の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する」問題（第5学年及び第6学年「読むこと」）は、35.1%の正答率（全国は40.8%）です。[大問3三（1）]
- ◆ 「【資料】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、他の複数の資料に書かれていることを理由にしてまとめて書く」問題（第5学年及び第6学年「読むこと」）は、56.2%の正答率（全国は56.3%）です。[大問3三（2）]

国語における課題

- ・ 文章の内容や描写を基に、書き手がどのような事実を理由や例として挙げているのかなどに着目し、文章全体の流れをつかんで要旨を把握すること。
- ・ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること。

小学校算数

【平均正答率】

	児童数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
小樽市	570	8.6 / 16	54
北海道	34,203	8.8 / 16	55
全国	936,399	9.3 / 16	58.0

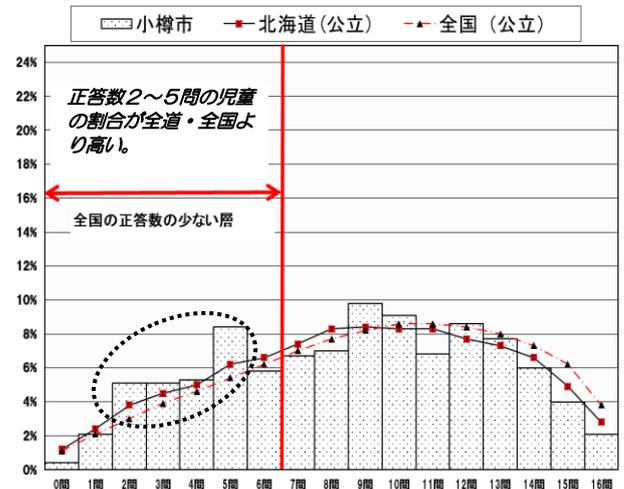
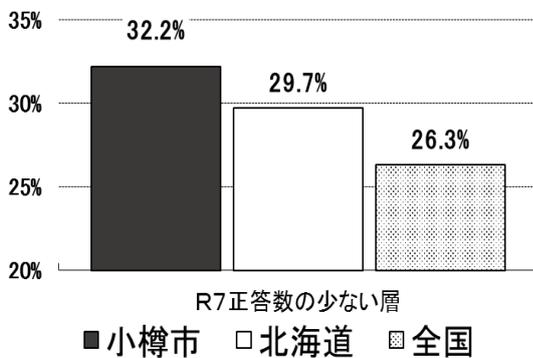
【分類・区分別集計結果】

※下線は、全道平均以上

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			小樽市	北海道	全国
学習 指導 要領 の 領域	A 数と計算	8	56.7	58.6	62.3
	B 図形	4	<u>54.2</u>	53.9	56.2
	C 測定	2	48.2	50.7	54.8
	C 変化と関係	3	53.6	55.4	57.5
	D データの活用	5	58.2	60.9	62.6

【「正答数分布状況」及び「全国の正答数の少ない層・多い層に含まれる児童の割合】

正答数の少ない層（正答数6問以下）に含まれる児童の割合が32.2%で、全国と比べ5.9ポイント多い。また、正答数の多い層（正答数13問以上）に含まれる児童の割合は19.8%で、全国と比べ、5.5ポイント少ない。



【問題別調査結果の概要】（◇正答率が高い問題 ◆正答率が低い等課題がみられる問題）

- ◇「2022年の全国のブロッコリーの出荷量が2002年の全国のブロッコリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ」問題（第3学年「数と計算」「データの活用」）は、71.6%の正答率（全国は78.7%）です。[大問1（1）]
- ◇「示された表から、『春だいこん』や『秋冬だいこん』より『夏だいこん』の出荷量が多い都道府県を選ぶ」問題（第3学年「データの活用」）は、70.4%の正答率（全国は71.6%）です。[大問1（3）]
- ◇「角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ」問題（第4学年「図形」）は、76.8%の正答率（全国は79.3%）です。[大問2（3）]
- ◆「都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く」問題（第3学年・第5学年「データの活用」）は、28.4%の正答率（全国は31.0%）です。[大問1（2）]
- ◆「 $3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く」問題（第5学年「数と計算」）は、17.4%の正答率（全国は23.0%）です。[大問3（2）]
- ◆「数直線上に示された数を分数で書く」問題（第3学年「数と計算」）は、28.1%の正答率（全国は35.0%）です。[大問3（3）]

算数における課題

- ・ 目的に応じて適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉えて判断し、その理由を言葉や数を用いて表現すること。
- ・ 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、整数の加法に帰着して考察したことを数や言葉を用いて表現すること。
- ・ 数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えること。

小学校理科

【平均正答率】

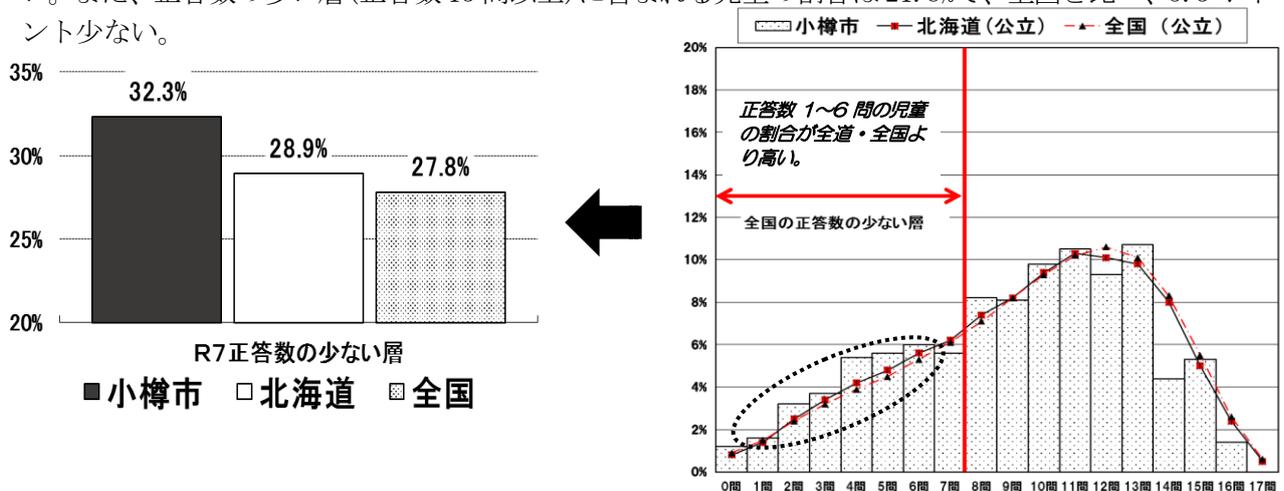
	児童数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
小樽市	570	9.1 / 17	54
北海道	34,220	9.6 / 17	56
全国	936,576	9.7 / 17	57.1

【分類・区分別集計結果】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			小樽市	北海道	全国
学習 指導 要領 の 領域	A エネルギー	4	43.3	44.8	46.7
	A 粒子	6	47.4	50.7	51.4
	B 生命	4	47.9	51.9	52.0
	B 地球	6	63.5	65.9	66.7

【「正答数分布状況」及び「全国の正答数の少ない層・多い層に含まれる児童の割合」】

正答数の少ない層（正答数7問以下）に含まれる児童の割合が32.3%で、全国と比べ4.5ポイント多い。また、正答数の多い層（正答数13問以上）に含まれる児童の割合は21.8%で、全国と比べ、5.3ポイント少ない。



【問題別調査結果の概要】(◇正答率が高い問題 ◆正答率が低い等課題がみられる問題)

- ◇ 「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く」問題（第4学年『地球』を柱とする領域）は、78.1%の正答率（全国は79.5%）です。[大問1（1）]
- ◇ 「【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ」問題（第4学年『地球』を柱とする領域）は、74.2%の正答率（全国は77.8%）です。[大問1（3）]
- ◇ 「ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く」問題（第5学年『エネルギー』を柱とする領域）は、76.3%の正答率（全国は78.0%）です。[大問2（3）]
- ◆ 「アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ」問題（第3学年『エネルギー』を柱とする領域『粒子』を柱とする領域）は、6.0%の正答率（全国は10.6%）です。[大問2（1）]
- ◆ 「電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bの電気を通す部分に当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ」問題（第5学年『エネルギー』を柱とする領域）は、37.2%の正答率（全国は42.9%）です。[大問2（2）]
- ◆ 「レタスの種子の発芽の結果から、クラスの友だちの気づきを基に、見いだした問題について書く」問題（第5学年『生命』を柱とする領域）は、25.4%の正答率（全国は29.9%）です。[大問3（4）]

理科における課題

- ・身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いていること。
- ・電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現すること。
- ・植物の育ち方について、発芽、成長及び結実の様子に着目し、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現すること。

中学校国語

【平均正答率】

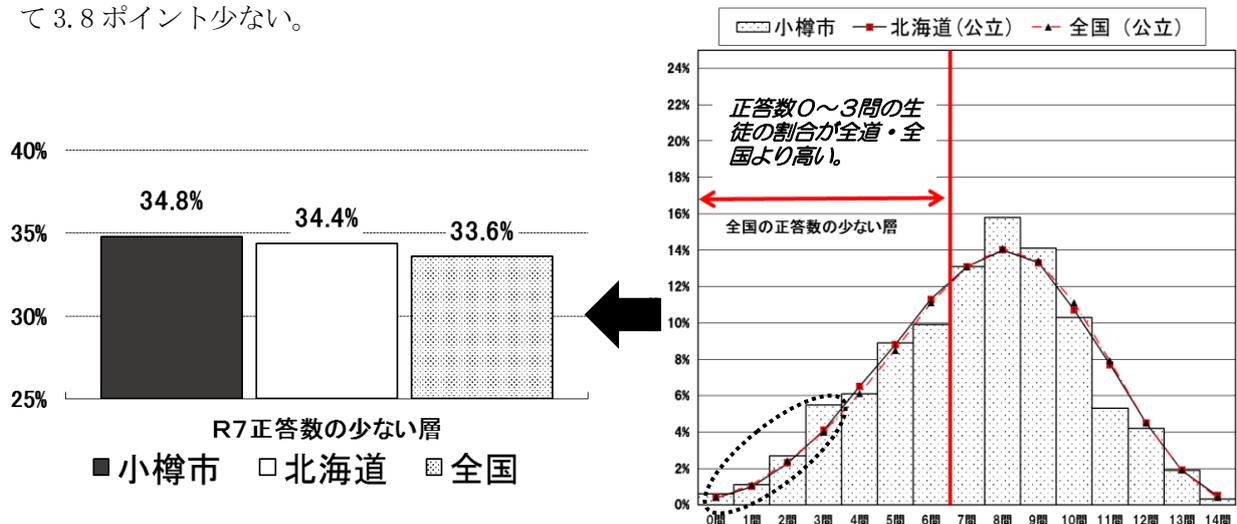
	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)
小樽市	619	7.4 / 14	53
北海道	33,467	7.6 / 14	54
全国	870,560	7.6 / 14	54.3

【分類・区分別集計結果】

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			小樽市	北海道	全国	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	2	47.6	48.8	48.1
		(2) 情報の扱い方に 関する事項	0			
		(3) 我が国の言語文化 に関する事項	0			
思考力、 判断力、 表現力等	A	話すこと・聞くこと	4	53.1	53.8	53.2
	B	書くこと	5	49.8	51.4	52.8
	C	読むこと	3	60.6	62.0	62.3

【「正答数分布状況」及び「全国の前答数の少ない層・多い層に含まれる生徒の割合】

正答数の少ない層(正答数6問以下)に含まれる生徒の割合が34.8%で、全国と比べ1.2ポイント多い。また、正答数の多い層(正答数10問以上)に含まれる生徒の割合は、22.0%で、全国と比べて3.8ポイント少ない。



【問題別調査結果の概要】(◇正答率が高い問題 ◆正答率が低い等課題がみられる問題)

- ◇「ちらしに『会場図』を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する」問題(第1学年「書くこと」)は、81.1%の正答率(全国は82.5%)です。[大問1二]
- ◇「聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する」問題(第1学年「話すこと・聞くこと」)は、75.6%の正答率(全国は77.9%)です。[大問2二]
- ◇『兄』と『弟』が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く」問題(第2学年「読むこと」)は、89.5%の正答率(全国は89.9%)です。[大問3二]
- ◆「ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く」問題(第1学年「書くこと」)は、28.6%の正答率(全国は31.0%)です。[大問1四]
- ◆「一方の話に書かれている場面が、もう一方の話には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書く」問題(第1学年「読むこと」)は、15.5%の正答率(全国は17.1%)です。[大問3四]
- ◆「手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、その理由を書く」問題(第1学年「書くこと」)は、27.6%の正答率(全国は30.1%)です。[大問4二]

国語における課題

- ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと。
- ・文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること。
- ・読み手の立場に立って、どのような言葉を選び、どのような構成で述べるかなどを確かめて、文章を整えること。

中学校数学

【平均正答率】

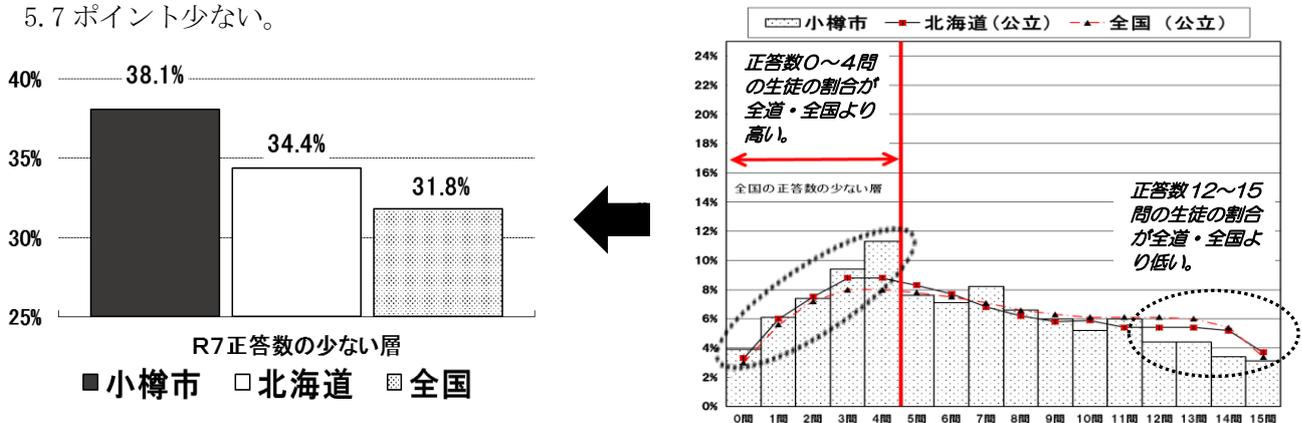
	生徒数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
小樽市	619	6.6 / 15	44
北海道	33,474	7.0 / 15	47
全国	871,097	7.2 / 15	48.3

【分類・区分別集計結果】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			小樽市	北海道	全国
学習 指導 要領 の 領域	A 数と式	5	41.3	43.4	43.5
	B 図形	4	41.7	44.9	46.5
	C 関数	3	42.5	46.6	48.2
	D データの活用	3	53.0	54.8	58.6

【「正答数分布状況」及び「全国の正答数の少ない層・多い層に含まれる生徒の割合」】

正答数の少ない層（正答数4問以下）に含まれる生徒の割合が38.1%で、全国と比べ6.3ポイント多い。また、正答数の多い層（正答数11問以上）に含まれる生徒の割合は、21.3%で、全国と比べ、5.7ポイント少ない。



【問題別調査結果の概要】（◇正答率が高い問題 ◆正答率が低い等課題がみられる問題）

- ◇「Aさんの手元のカードが3枚とも『グー』、Bさんの手元のカードが3枚とも『チョキ』でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAさんが勝つ確率を書く」問題（第2学年「データの活用」）は、77.4%の正答率（全国は77.4%）です。[大問7（1）]
- ◇「A駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればC駅とD駅間の走行距離が分かるかを選ぶ」問題（第1学年「関数」）は、70.0%の正答率（全国は71.9%）です。[大問8（1）]
- ◆「一次関数 $y = 6x + 5$ について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求める」問題（第2学年「関数」）は、22.5%の正答率（全国は34.7%）です。[大問4]
- ◆「Aさんの手元のカードが『グー』、『チョキ』、『パー』、『パー』の4枚、Bさんの手元のカードが『グー』、『チョキ』の2枚のとき、AさんとBさんの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する」問題（第2学年「データの活用」）は、48.0%の正答率（全国は55.9%）です。[大問7（2）]
- ◆「平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上に $BE = DF$ となる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する」問題（第2学年「図形」）は、28.9%の正答率（全国は33.2%）です。[大問9（3）]

数学における課題

- ・一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めること。
- ・不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。
- ・ある事柄が成り立つ理由を構想に基づき、数学的な表現を用いて説明すること。

中学校理科

【平均正答数集計値（公開問題）】

	生徒数 (人)	実施日別の問題 ※[]は問題番号				
		全日曜に共通する問題 平均正答数 【1】	平均正答数 【2】、【9】	平均正答数 【5】、【8】	平均正答数 【3】、【6】	平均正答数 【4】、【7】
小樽市	609	3.0 / 6	- / 4	1.9 / 4	2.1 / 4	2.2 / 4
北海道	33,370	3.0 / 6	2.0 / 4	1.9 / 4	2.2 / 4	2.3 / 4
全国	864,634	2.9 / 6	2.0 / 4	1.9 / 4	2.3 / 4	2.3 / 4

※【2】及び【9】は、本市においては出題されなかったため「-（棒線）」で示している。

【IRTスコア集計値】

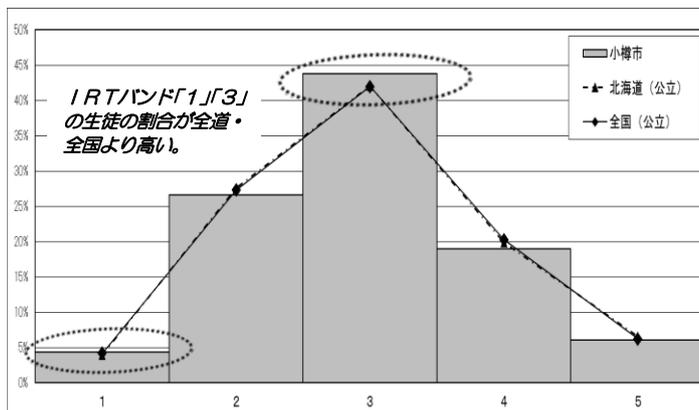
	平均 IRTスコア	パーセンタイル値				
		10%	25%	50%	75%	90%
小樽市	502	363	425	491	567	654
北海道	505	364	423	493	573	655
全国	503	361	422	495	572	652

【「IRTバンド分布グラフ」及び「IRTバンド集計値】

最も低いバンド（IRTバンド1）に含まれる生徒の割合は4.4%で、全国と比べ0.2ポイント多い。平均バンド（IRTバンド3）に含まれる生徒の割合は43.8%で、全国と比べ1.8ポイント多い。また、最も高いバンド（IRTバンド5）に含まれる生徒の割合は6.1%で、全国と比べ0.1ポイント少ない。

※IRTバンド：IRTスコアを1～5の5段階に区切ったもので、3が平均バンド、5が最も高いバンドとなる。

IRT バンド	割合（%）		
	小樽市	北海道 (公立)	全国 (公立)
5	6.1	6.6	6.2
4	19.0	19.9	20.3
3	43.8	42.1	42.0
2	26.6	27.6	27.3
1	4.4	3.9	4.2



【問題別調査結果の概要】（◇正答率が高い問題 ◆正答率が低い等課題がみられる問題）

- ◇「水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程における振り返りを記述する」問題（『粒子』を柱とする領域）は、82.1%の正答率（全国は79.4%）です。[大問1（6）]
- ◇「『一酸化炭素は空気より軽い』という性質を基に、適切な避難行動を選択する」問題（『粒子』を柱とする領域）は、92.6%の正答率（全国は92.8%）です。[大問4（2）]
- ◇「加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する」問題（『粒子』を柱とする領域）は、92.9%の正答率（全国は93.0%）です。[大問5（1）]
- ◆「電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する」問題（『エネルギー』を柱とする領域）は、49.4%の正答率（全国は51.9%）です。[大問1（1）]
- ◆「プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の密度の大小を判断し、小さい順に並べる」問題（『粒子』を柱とする領域）は、42.6%の正答率（全国は50.4%）です。[大問4（1）]
- ◆「実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す」問題（『粒子』を柱とする領域）は、35.0%の正答率（全国は35.6%）です。[大問5（2）]

理科における課題

- ・直列回路と並列回路における回路全体の抵抗と熱量に関する知識を身に付けること。
- ・実験の様子と密度に関する知識及び技能を関連付けて、気体の密度の大小関係を分析して解釈すること。
- ・化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すこと。

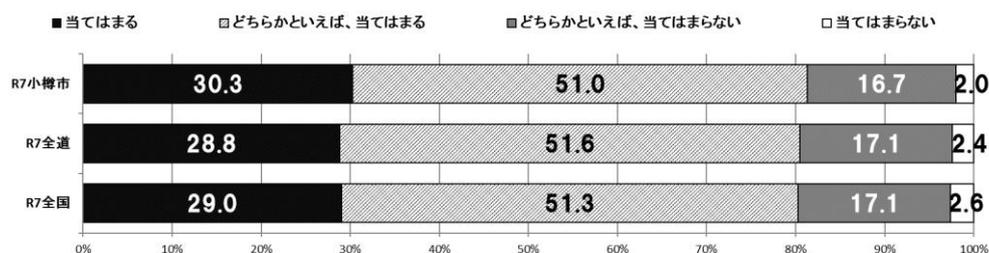
Ⅲ 児童生徒質問調査結果の概要

児童生徒質問調査は、学習意欲、学習方法、生活面などに関する調査であり、主なものを掲載しています。

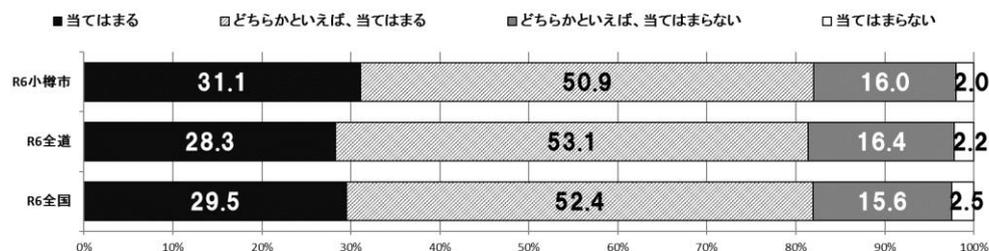
1 5年生まで（中学校は1、2年生まで）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

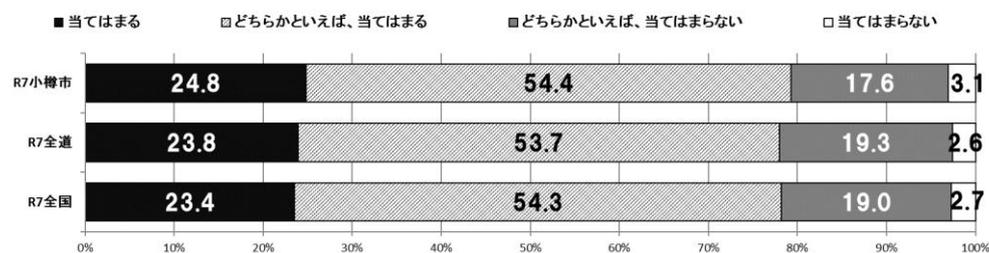
【小学校】＜令和7年度＞



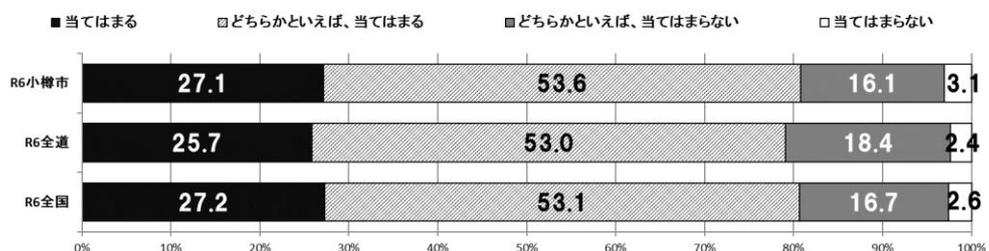
【小学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和6年度＞

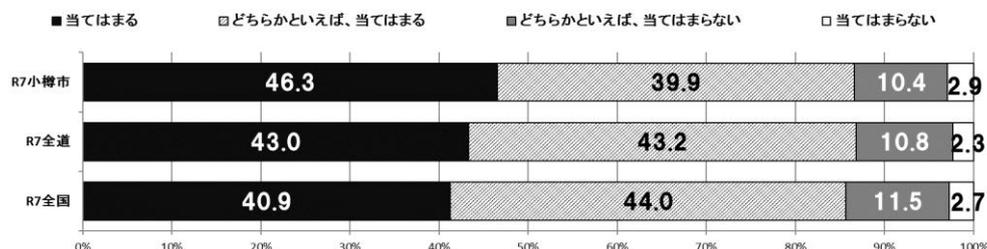


- ・ 小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が81.3%で、全国（80.3%）と比べ、1.0ポイント高くなっています。中学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が79.2%であり、全国（77.7%）と比べ、1.5ポイント高くなっています。
- ・ 課題設定や発問の工夫などを通して、児童生徒自身が見通しをもって課題解決に取り組む授業づくりが進められていることがうかがえます。

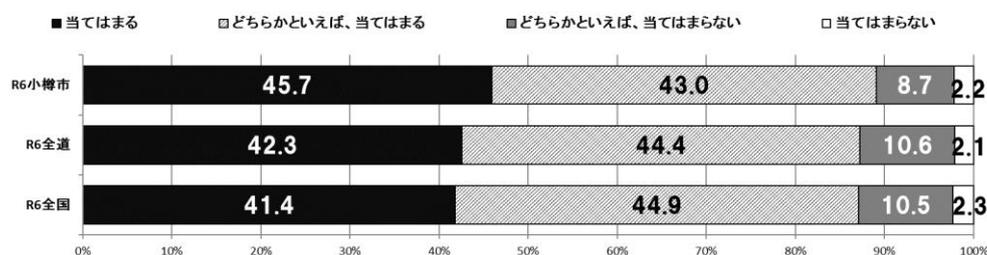
2 学級の友達との（中学校は生徒の）間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

※「活動を行っていない」「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

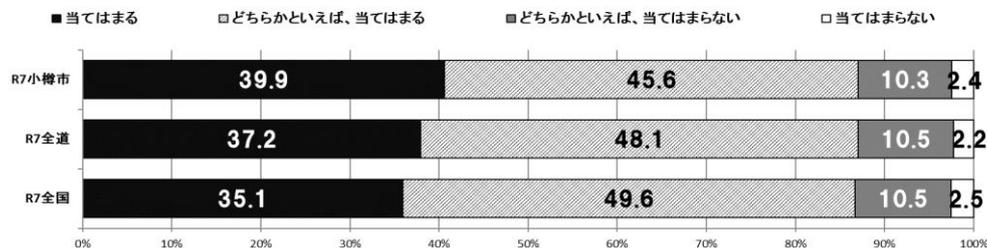
【小学校】＜令和7年度＞



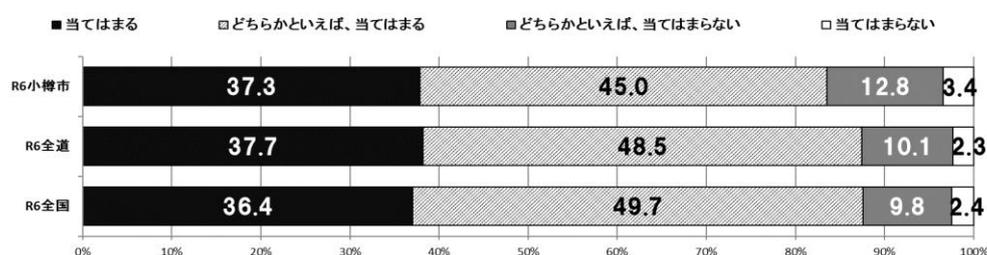
【小学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和6年度＞

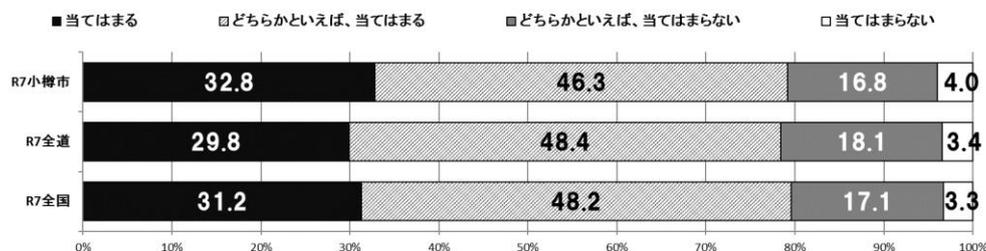


- ・ 小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が、86.2%で、全国（84.9%）と比べ、1.3ポイント高くなっています。中学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が85.5%であり、全国（84.7%）と比べ、0.8ポイント高くなっています。
- ・ 課題解決の場面において対話を通じて考えを深める活動を取り入れるなど、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善が進められていることがうかがえます。

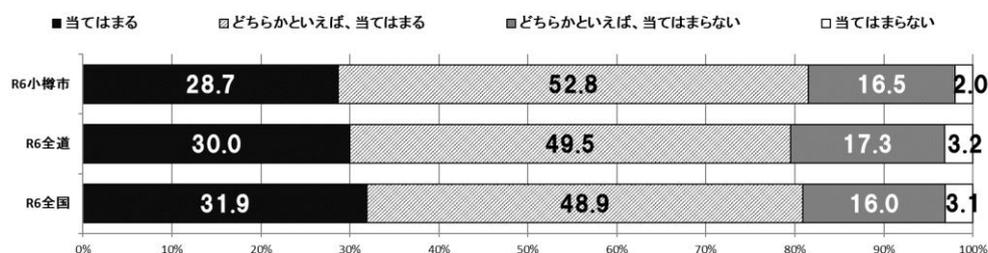
3 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

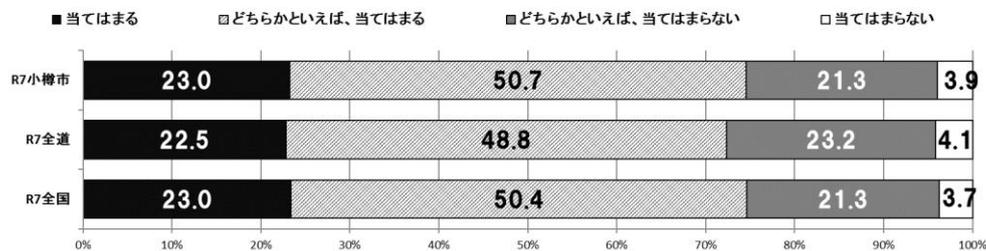
【小学校】＜令和7年度＞



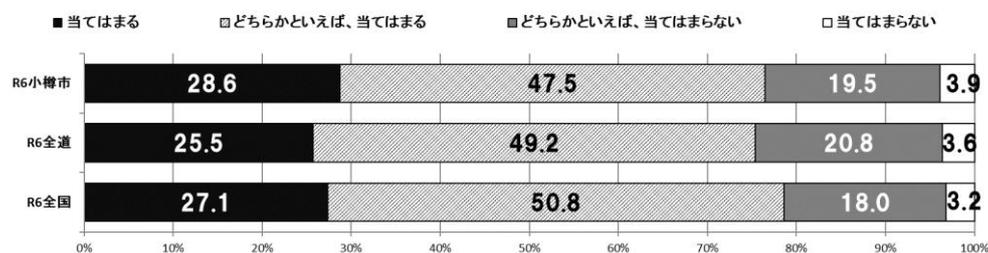
【小学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和6年度＞

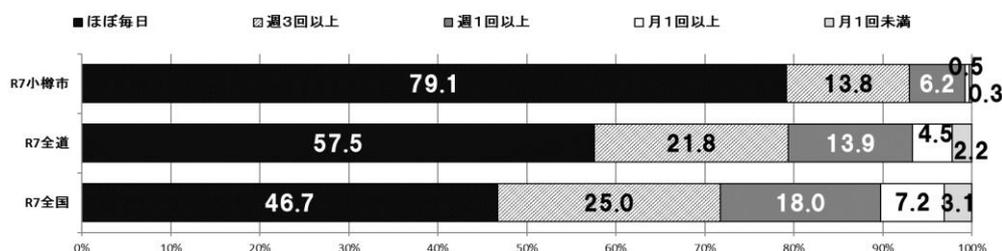


- ・ 小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が、79.1%で、全国（79.4%）と比べ、0.3ポイント低くなっています。中学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が73.7%であり、全国（73.4%）と比べ、0.3ポイント高くなっています。
- ・ 授業の終末場面において、学んだことを振り返る場面を設定するなど、児童生徒自身に自らの学習の状況を認識させることが大切です。

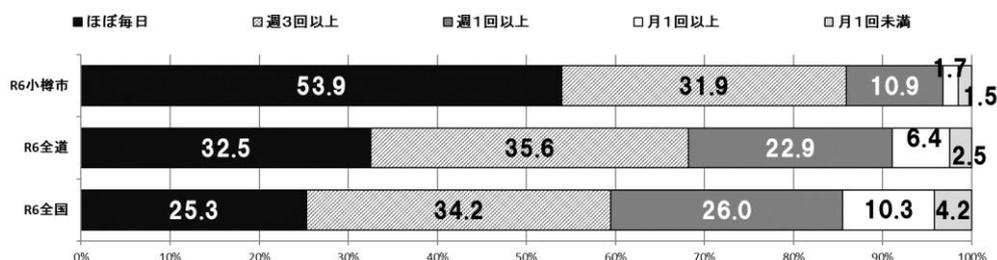
4 5年生までに（中学校は「1、2年生のときに」）受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

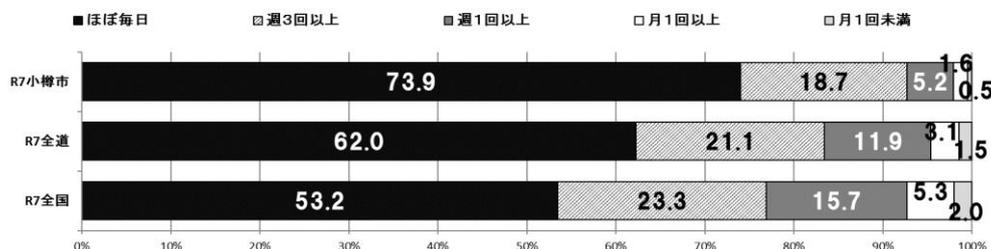
【小学校】＜令和7年度＞



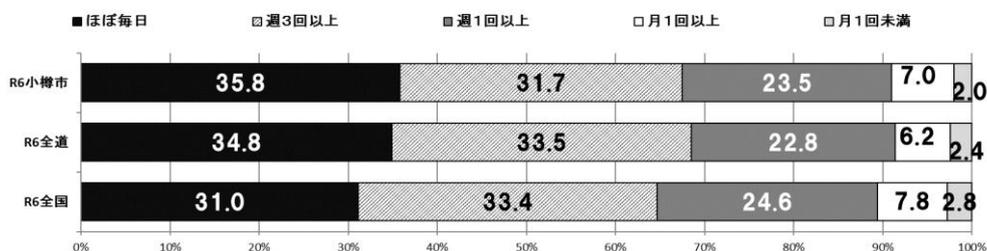
【小学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和6年度＞

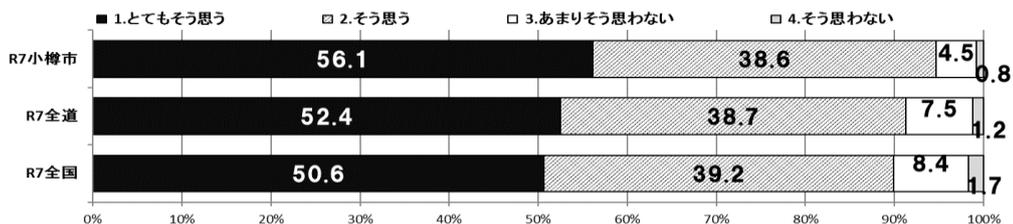


- ・ 小学校は、「ほぼ毎日」の割合が79.1%で、全国（46.7%）と比べ、32.4ポイント高くなっています。中学校は、「ほぼ毎日」の割合が73.9%で、全国（53.2%）と比べ、20.7ポイント高くなっています。
- ・ 各学校では、活用促進に向けた校内研修などに取り組み、授業における1人1台端末の活用が進んでいることがうかがえます。

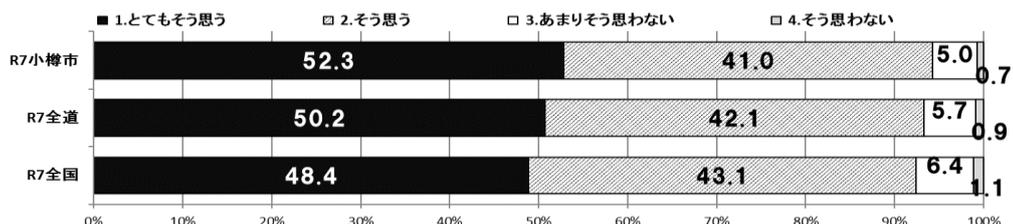
5-1 あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

【小学校】＜令和7年度＞



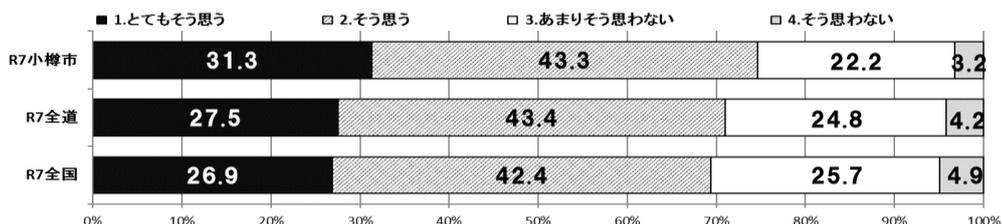
【中学校】＜令和7年度＞



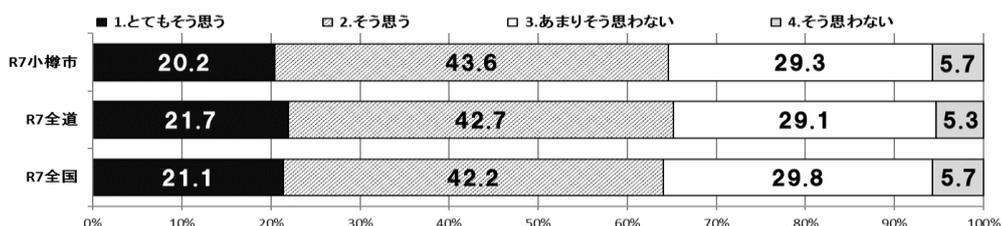
5-2 あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

【小学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和7年度＞



5-1

・「とてもそう思う」「そう思う」の割合が、小学校では94.7%で、全国（89.8%）と比べ、4.9ポイント高くなっており、中学校では93.3%であり、全国（91.5%）と比べ、1.8ポイント高くなっています。

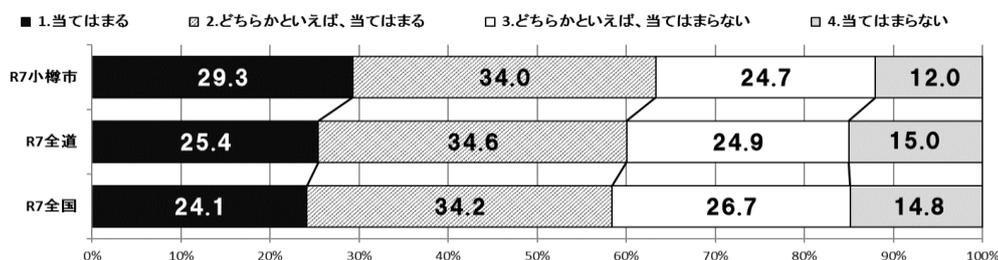
5-2

・「とてもそう思う」「そう思う」の割合が、小学校では74.6%で、全国（69.3%）と比べ、5.3ポイント高くなっており、中学校では63.8%であり、全国（63.3%）と比べ、0.5ポイント高くなっています。

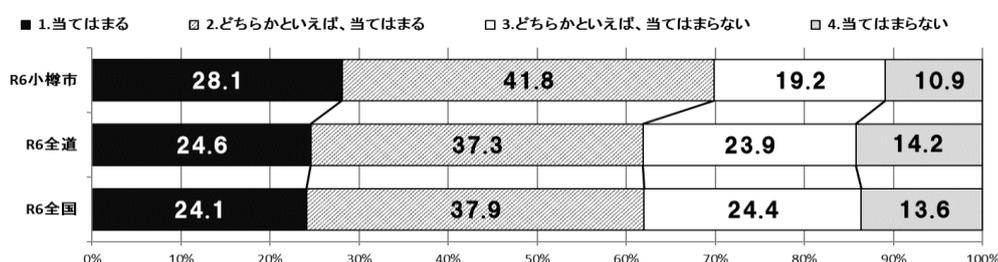
・両項目において、小中ともに全国を上回っております。情報を収集すること及び整理することは探究的な学びにおいて重要な学習過程であることから、今後も1人1台端末を効果的に活用し授業改善に努める必要があります。

6-1 国語の勉強は好きですか。 ※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

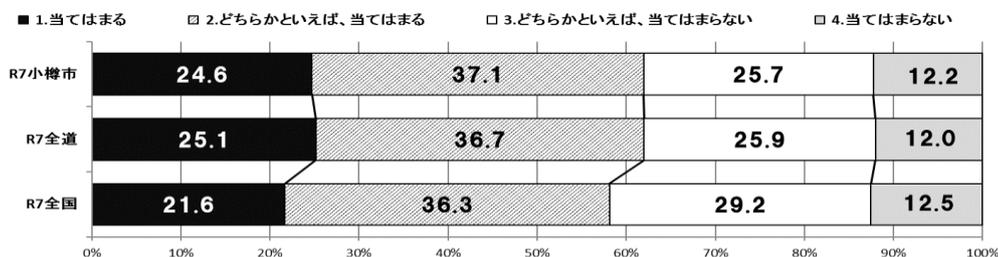
【小学校】＜令和7年度＞



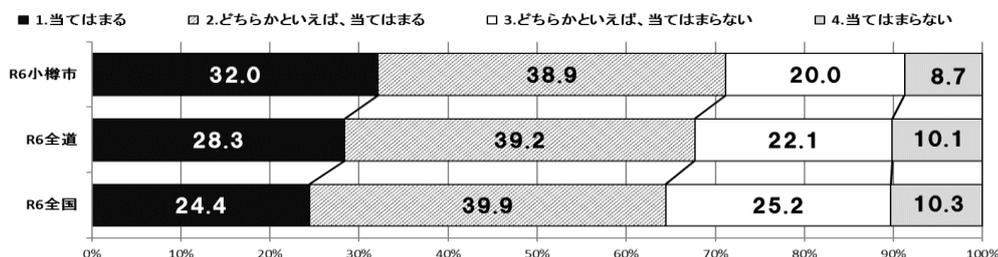
【小学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和7年度＞



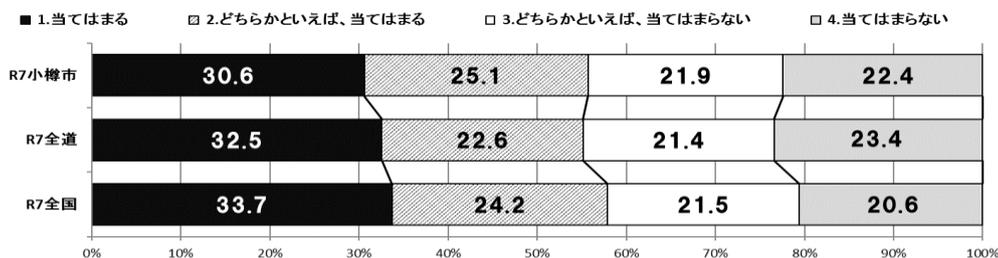
【中学校】＜令和6年度＞



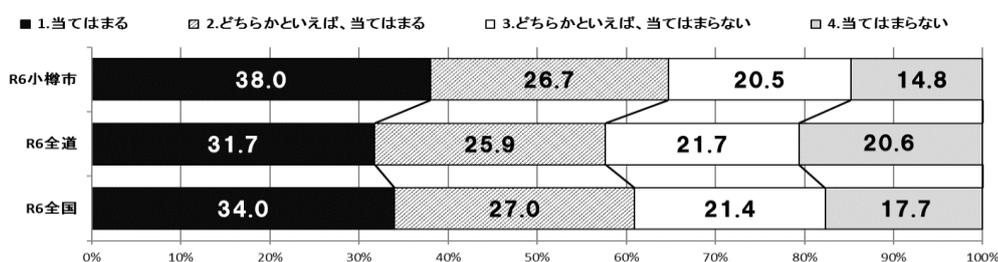
- ・小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合が、63.3%で、全国(58.3%)と比べ、5.0ポイント高くなっています。中学校は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合が61.7%であり、全国(57.9%)と比べ、3.8ポイント高くなっています。
- ・多くの児童生徒が「国語の勉強が好き」と回答していることから、引き続き「わかる」「できる」授業の実現に向けて授業改善を進めていくことが大切です。

6-2 算数・数学の勉強は好きですか。 ※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

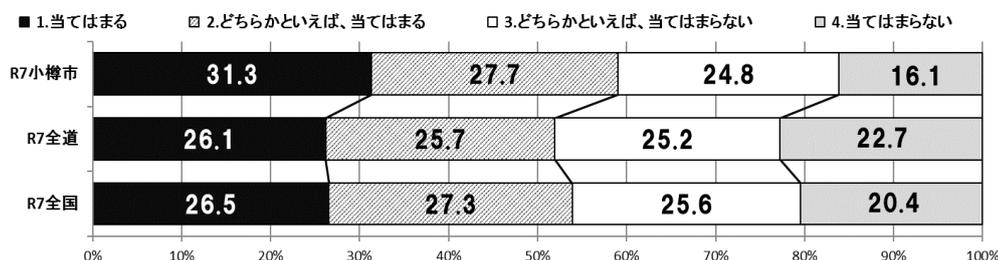
【小学校】＜令和7年度＞



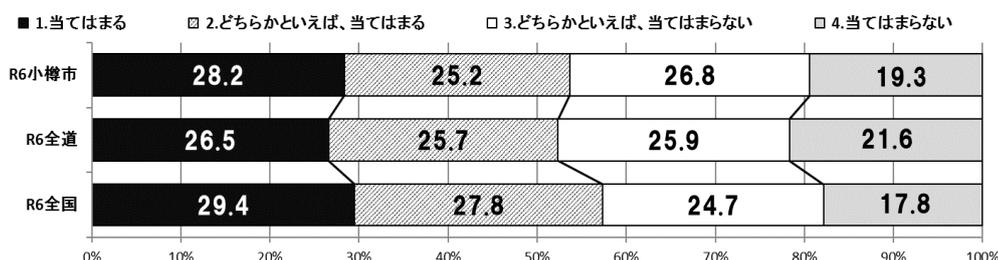
【小学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和7年度＞



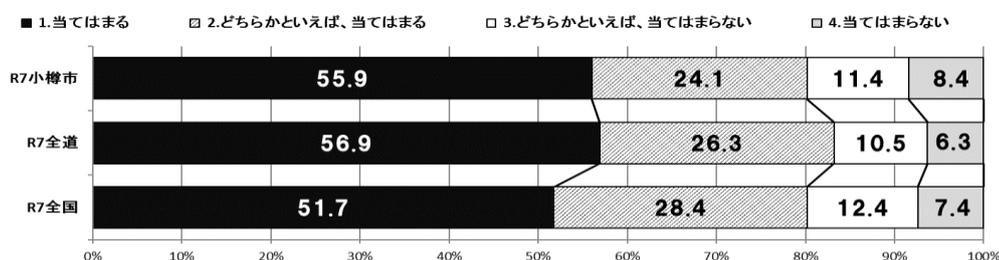
【中学校】＜令和6年度＞



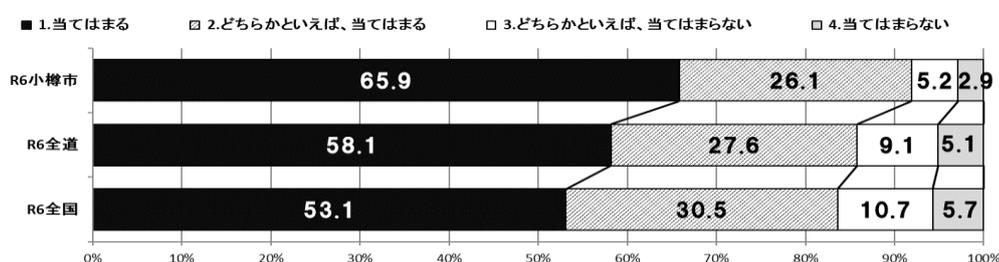
- ・小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合が、55.7%で、全国(57.9%)と比べ、2.2ポイント低くなっています。中学校は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合が59.0%であり、全国(53.8%)と比べ、5.2ポイント高くなっています。
- ・「算数・数学の勉強が好き」と回答する児童生徒がより多くなるために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を一層進める必要があります。

6-3 理科の勉強は好きですか。 ※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

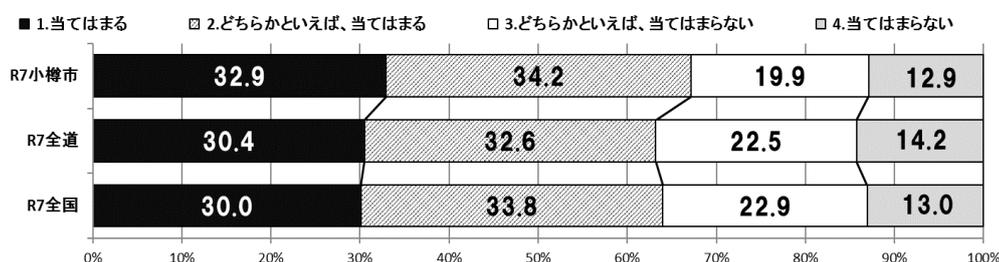
【小学校】＜令和7年度＞



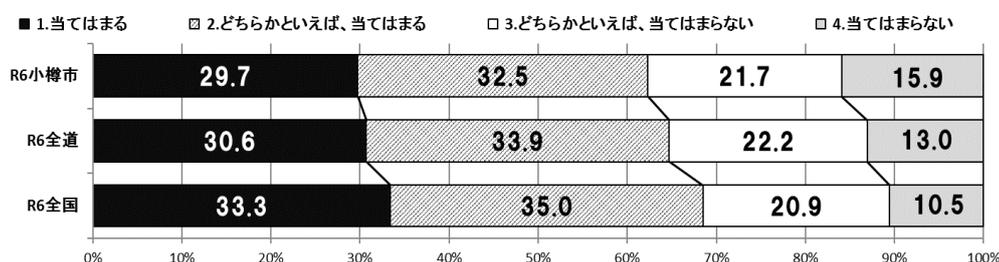
【小学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和7年度＞



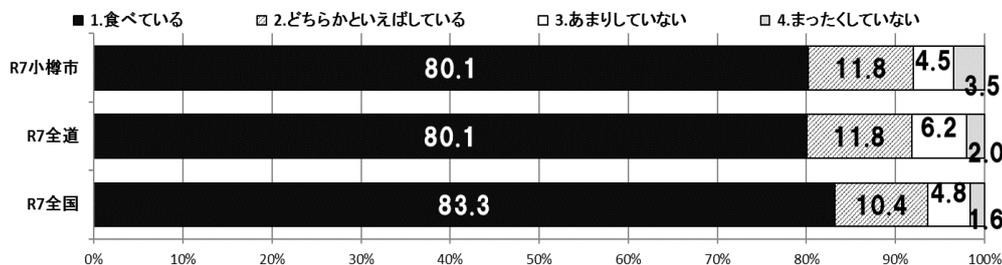
【中学校】＜令和6年度＞



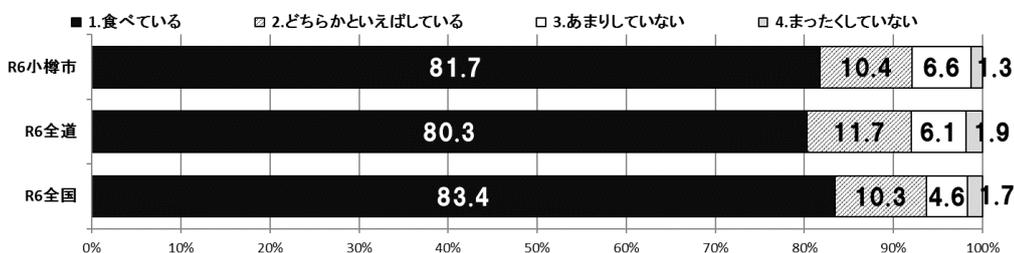
- ・小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合が、80.0%で、全国（80.1%）と比べ、0.1ポイント低くなっています。中学校は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合が67.1%であり、全国（63.8%）と比べ、3.3ポイント高くなっています。
- ・多くの児童生徒が「理科の勉強が好き」と回答していることから、引き続き問題解決の過程や探究の過程、日常生活との関連を重視した授業改善を進めていくことが大切です。

7 朝食を毎日食べていますか。 ※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

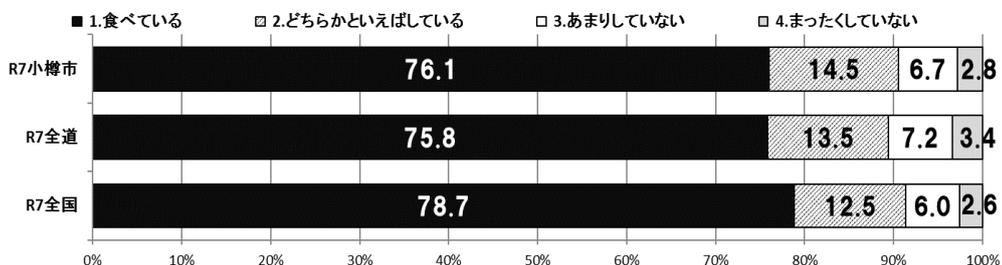
【小学校】＜令和7年度＞



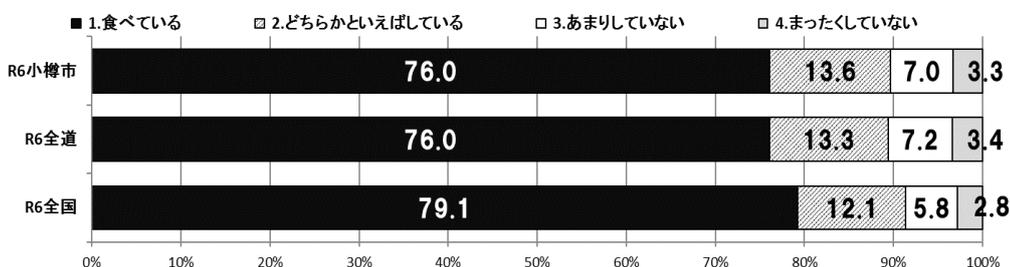
【小学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和6年度＞

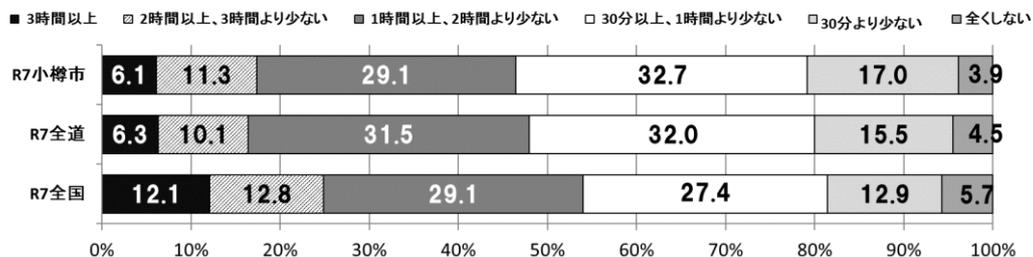


- ・ 小学校は「食べている」割合が80.1%で全国（83.3%）と比べ3.2ポイント低くなっています。中学校は「食べている」割合が76.1%で全国（78.7%）と比べ2.6ポイント低くなっています。
- ・ 毎日を元気に過ごすためには、早寝早起きや、朝食を食べることが大切であることから、引き続き家庭との連携を強化し、望ましい生活習慣を確立していく必要があります。

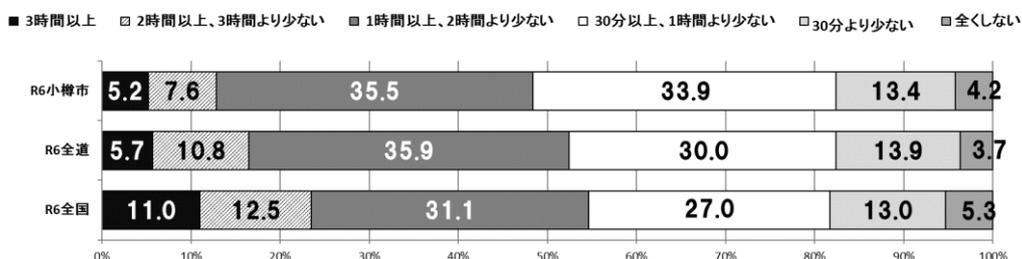
8 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

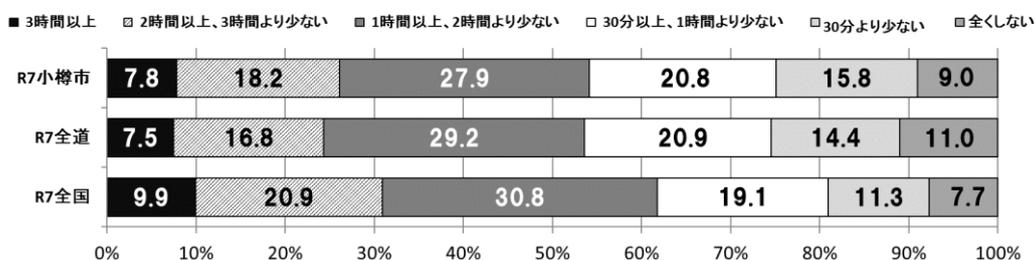
【小学校】＜令和7年度＞



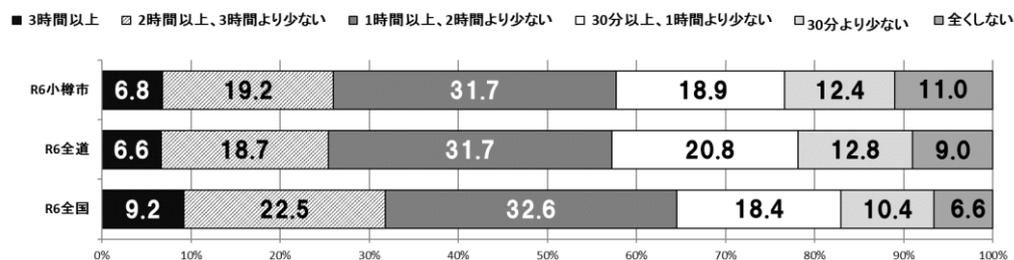
【小学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和6年度＞

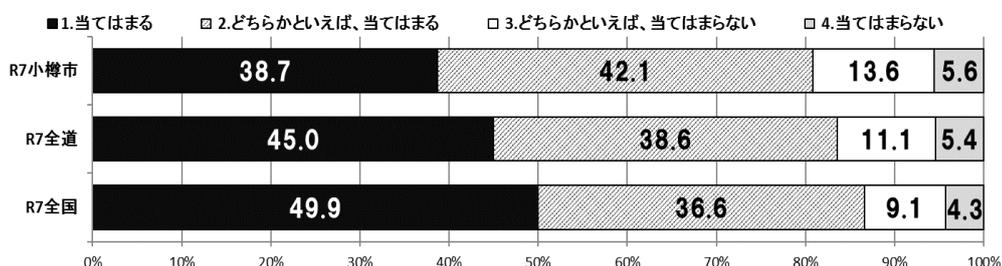


- ・小学校で「1日に1時間以上勉強する」割合は46.5%で、全国（54.0%）と比べ、7.5ポイント低く、中学校で「1日に2時間以上勉強する」割合は26.0%で、全国（30.8%）と比べ、4.8ポイント低くなっています。
- ・小・中ともに全国を下回っており、学校と家庭が協力した取組を進める必要があります。

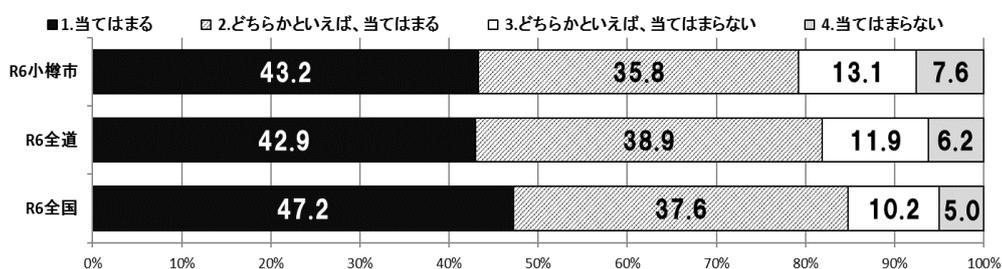
9 学校に行くのは楽しいと思いますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

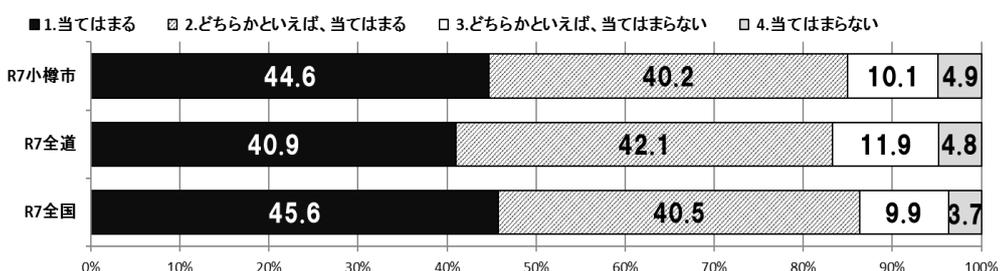
【小学校】＜令和7年度＞



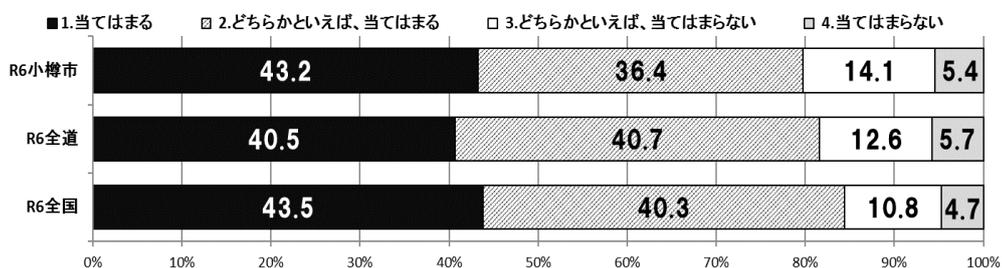
【小学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和6年度＞

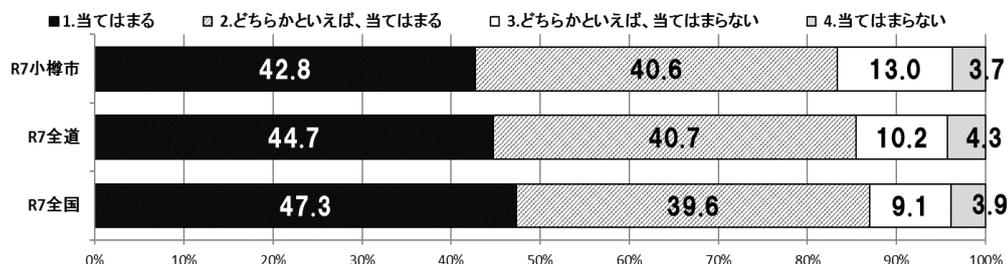


- ・ 小学校は、「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」の割合が、80.8%であり、全国（86.5%）と比べ、5.7ポイント低くなっています。中学校は84.8%であり、全国（86.1%）と比べ、1.3ポイント低くなっています。
- ・ 児童生徒が安心して学べる学級づくりに努めるとともに、一人一人が大切に見守られていると実感できる環境づくりに努める必要があります。

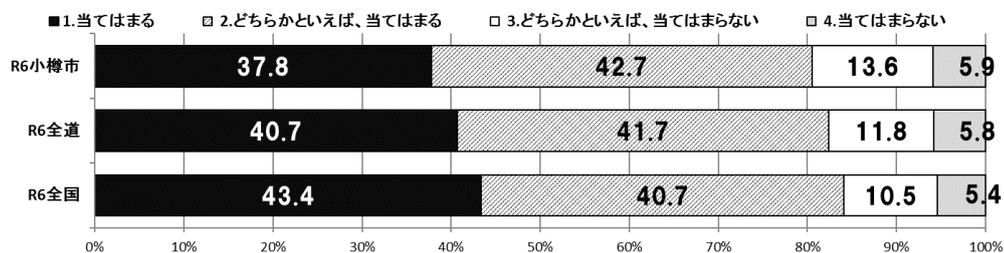
10 自分には、よいところがあると思いますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

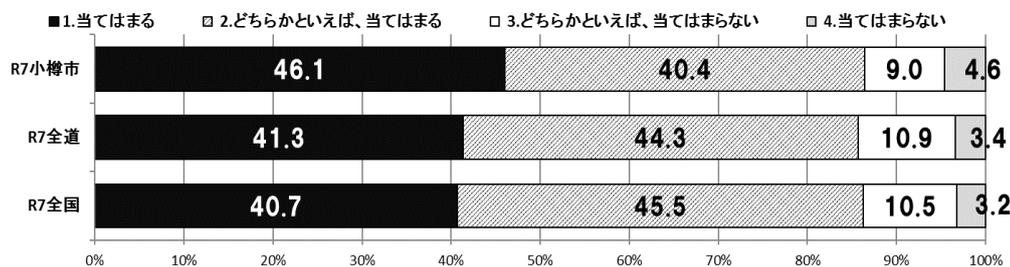
【小学校】＜令和7年度＞



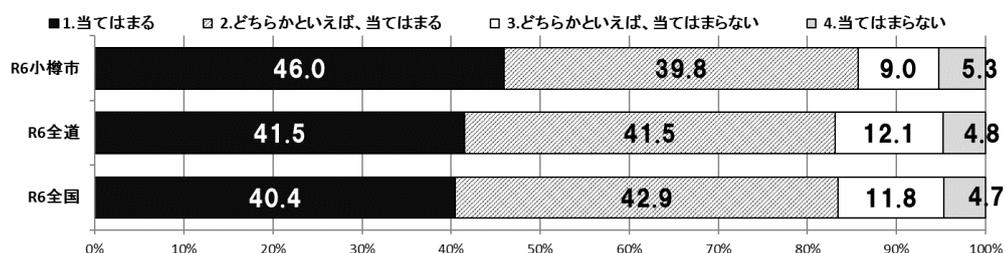
【小学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和6年度＞

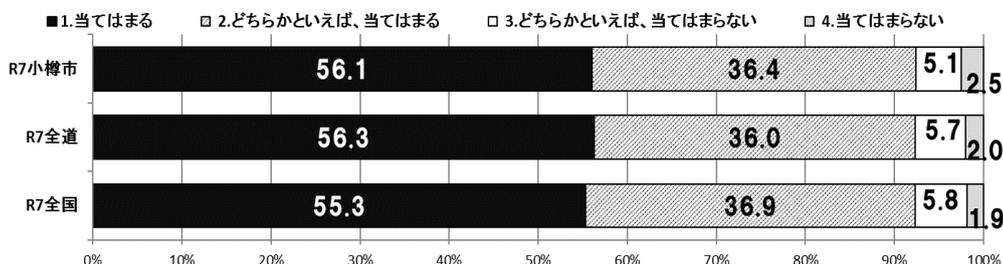


- ・小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が、83.4%で、全国（86.9%）と比べ、3.5ポイント低くなっています。中学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が86.5%であり、全国（86.2%）と比べ、0.3ポイント高くなっています。
- ・学校生活において、児童生徒の行動や努力を認め価値づけるなど、一人一人が安心して過ごせるような温かい環境づくりに努める必要があります。

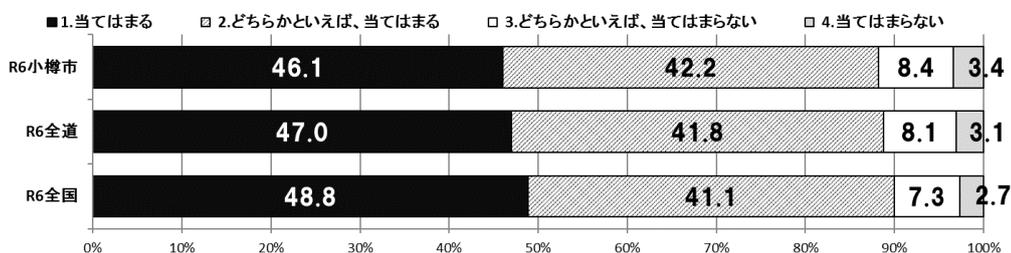
11 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

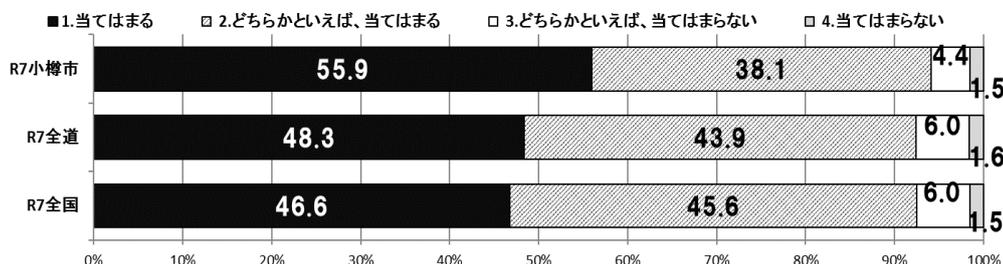
【小学校】＜令和7年度＞



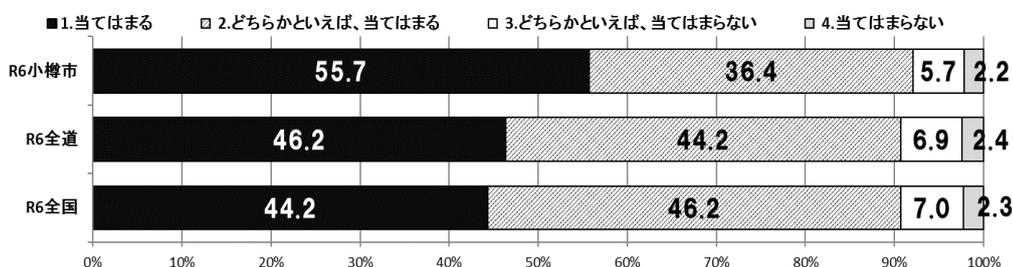
【小学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和6年度＞

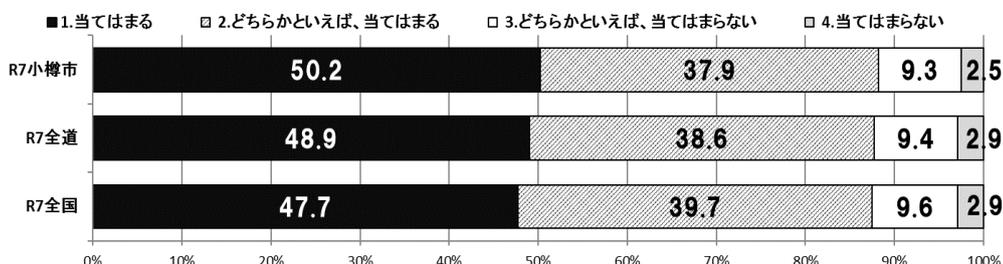


- ・小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が、92.5%で、全国（92.2%）と比べ、0.3ポイント高くなっています。中学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が94.0%であり、全国（92.2%）と比べ、1.8ポイント高くなっています。
- ・児童生徒一人一人の個性や努力の状況をこまめに見とり、好意に満ちた言葉がけを意識的に行うなど、自己肯定感を高めるためのかわりを小学校段階から継続していると考えられます。

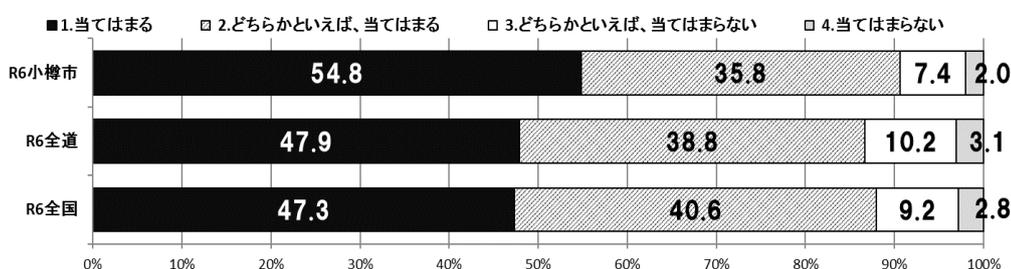
12 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

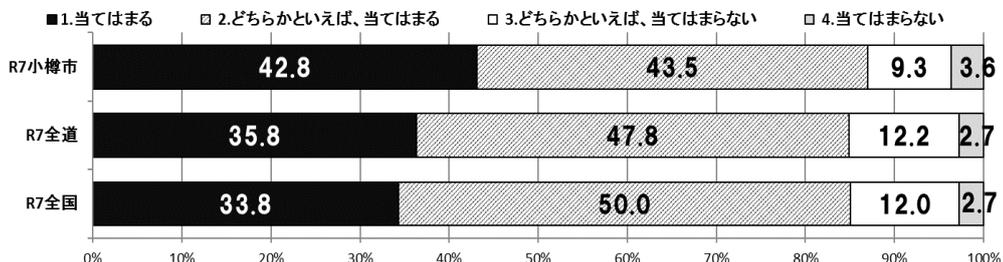
【小学校】＜令和7年度＞



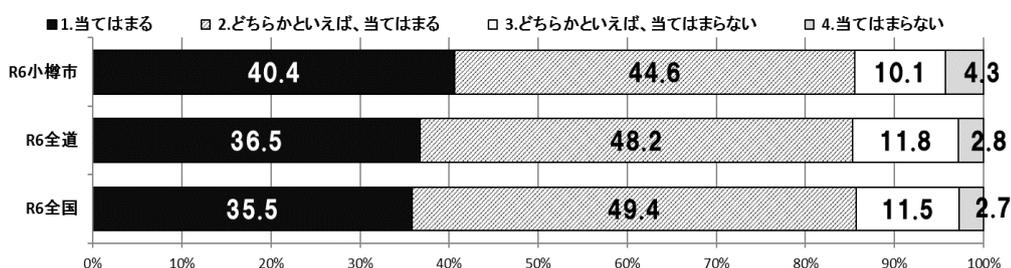
【小学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和6年度＞

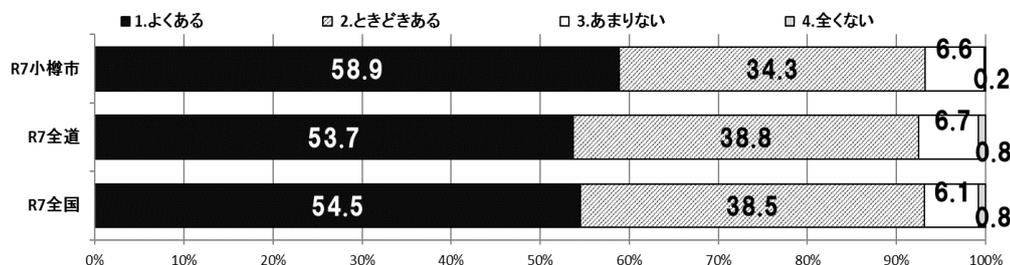


- ・小学校は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が、88.1%で、全国（87.4%）と比べ、0.7ポイント、中学校は、86.3%で、全国（83.8%）と比べ2.5ポイント高くなっています。
- ・多くの児童生徒が「分かるまで教えてくれている」と実感していることから、引き続き「わかる」「できる」授業の実現に向け授業改善を進めるとともに、一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導を継続していくことが大切です。

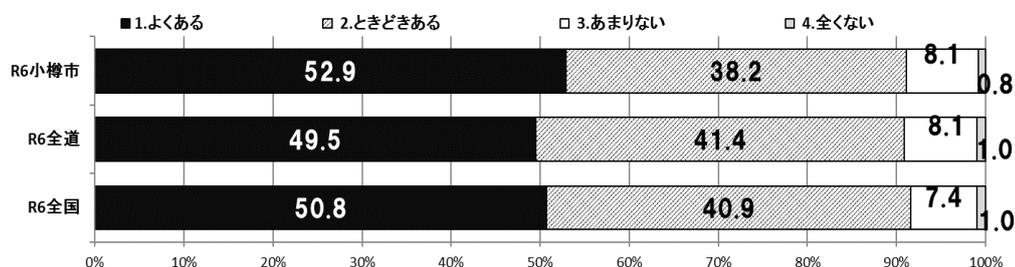
13 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

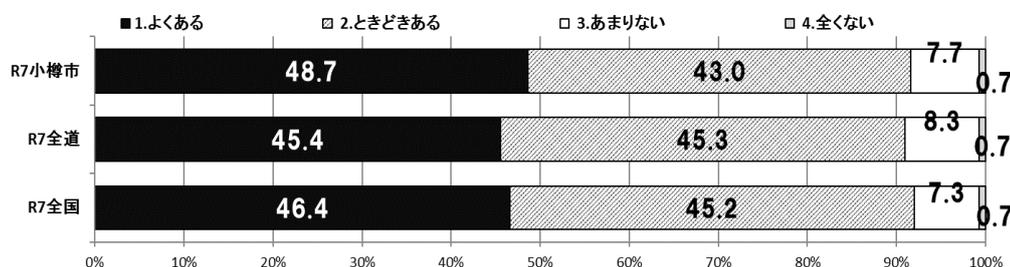
【小学校】＜令和7年度＞



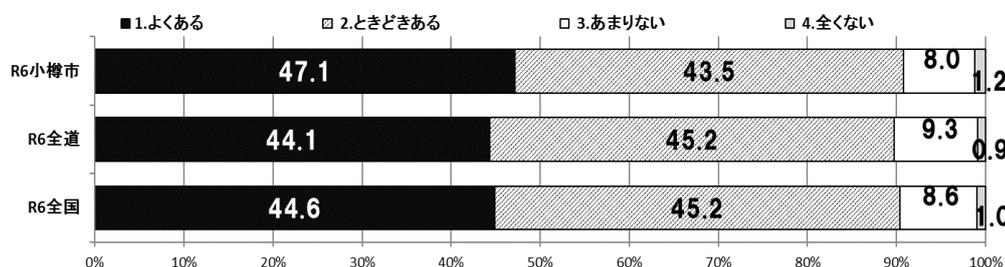
【小学校】＜令和6年度＞



【中学校】＜令和7年度＞



【中学校】＜令和6年度＞



- ・ 小学校は、「よくある」「ときどきある」の割合が、93.2%で、全国（93.0%）と比べ、0.2ポイント高くなっています。中学校は、「よくある」「ときどきある」の割合が91.7%であり、全国（91.6%）と比べ、0.1ポイント高くなっています。
- ・ 児童生徒一人一人の個性や努力の状況をこまめに見とり、好意に満ちた言葉がけを意識的に行うとともに、児童生徒自身が自らの成長を実感できるような活動を意図的、計画的に行っていくことが大切です。

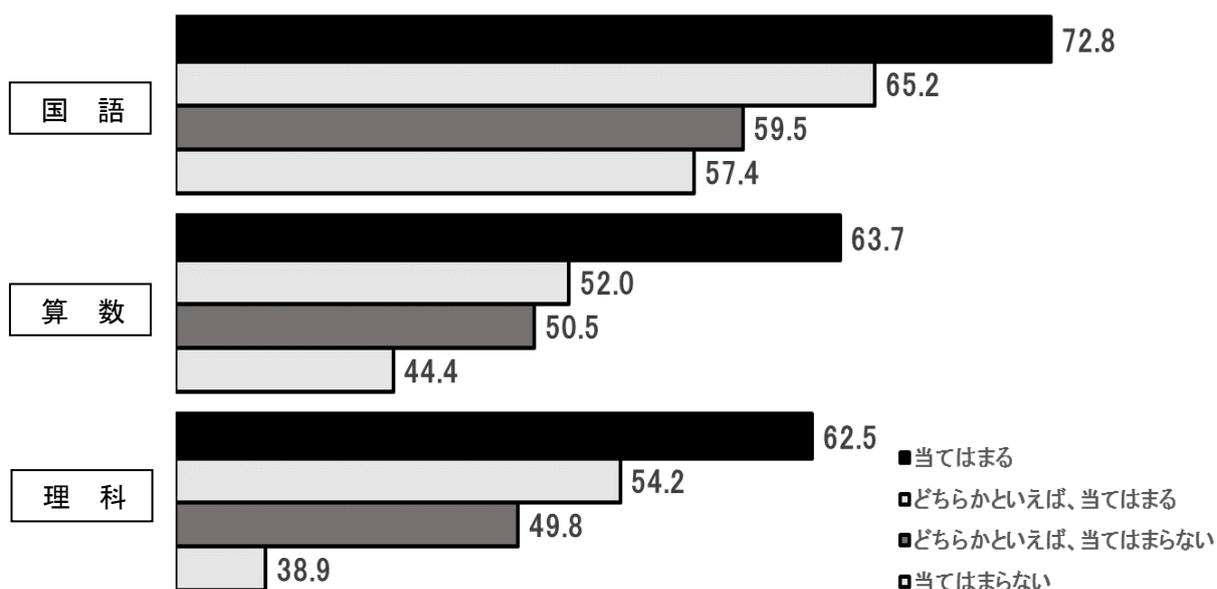
IV 児童生徒質問調査結果と平均正答率との相関

※児童生徒質問調査の回答と各教科の平均正答率との相関について、主なものを掲載しています。

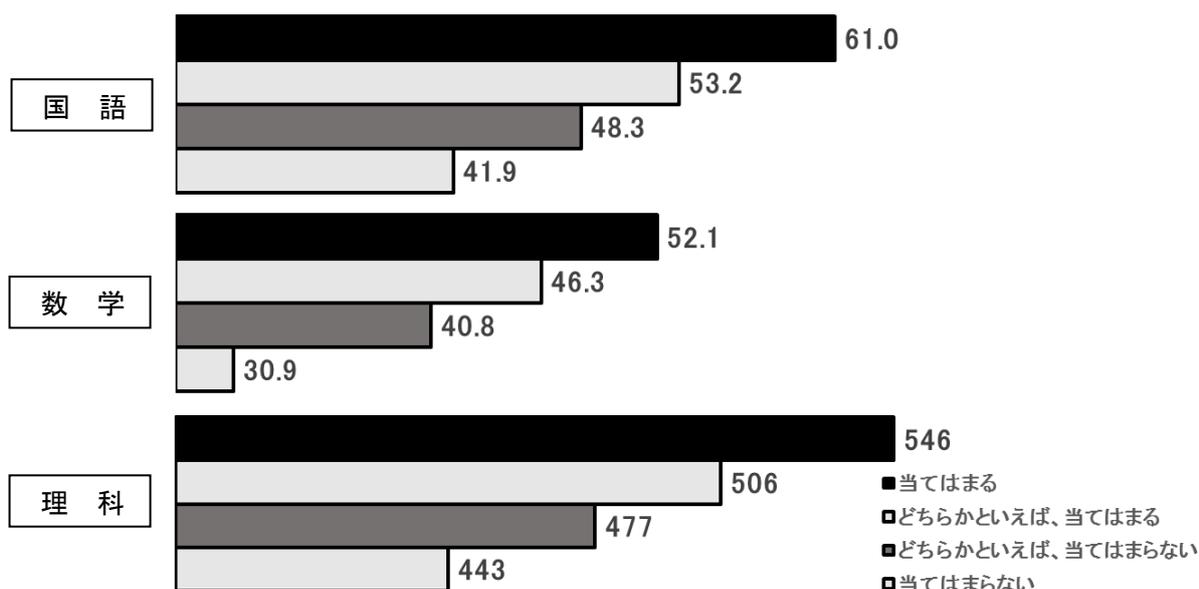
※グラフの数値は、各質問における回答項目ごとの正答率(中学校理科はIRTスコア)を示しています。

1 「読書は好きですか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率は高い傾向にあります。

【小学校】

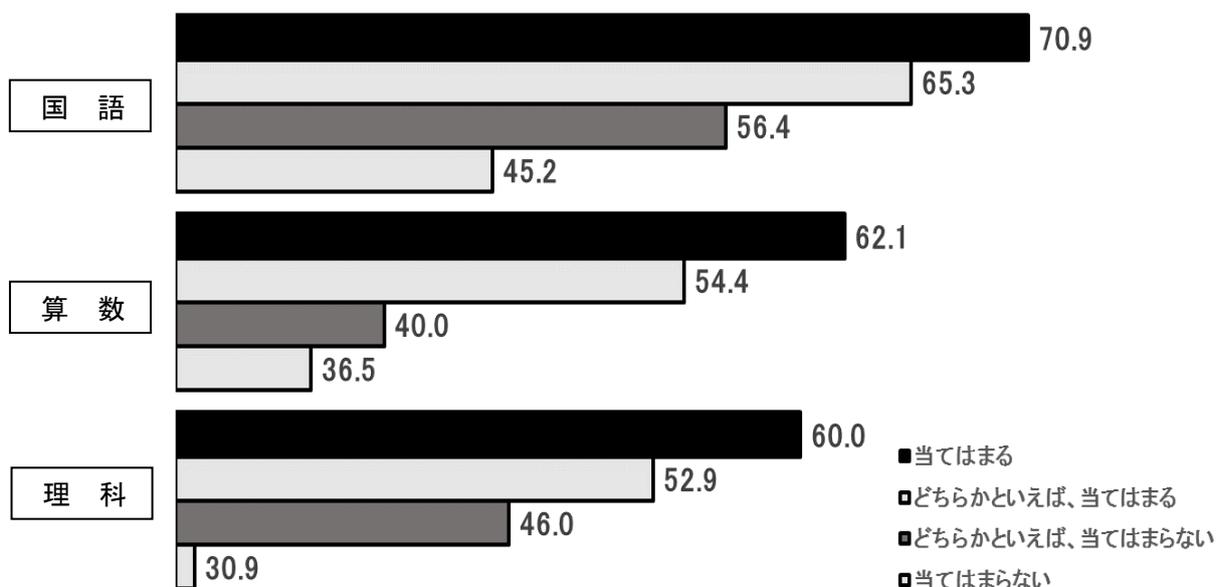


【中学校】

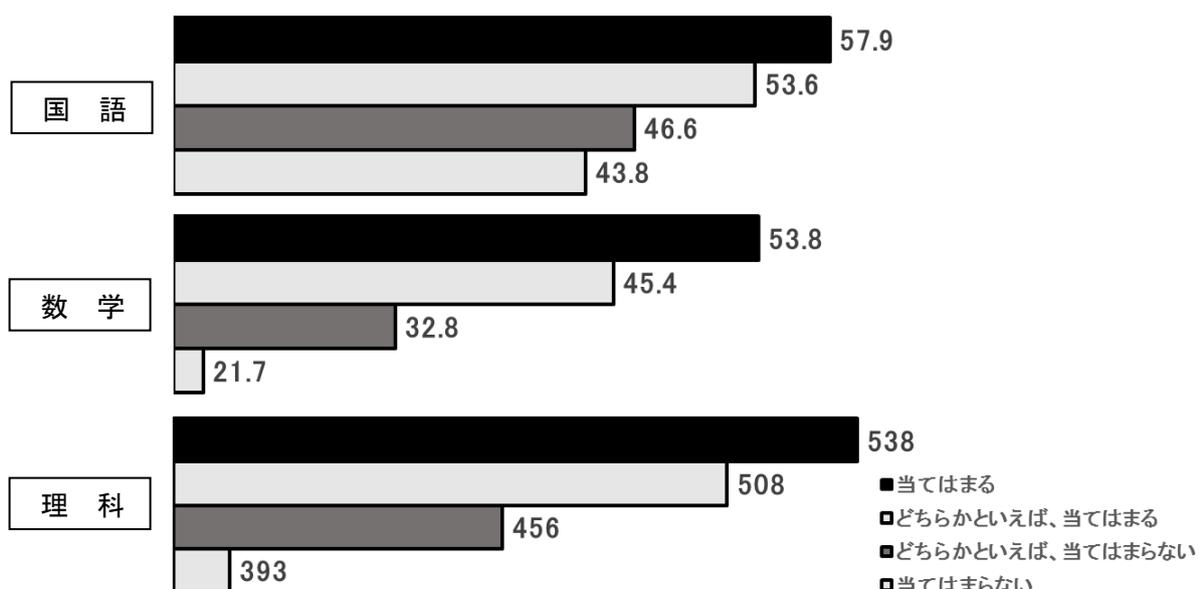


2 「5年生まで（中学校は1、2年生まで）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率は高い傾向にあります。

【小学校】

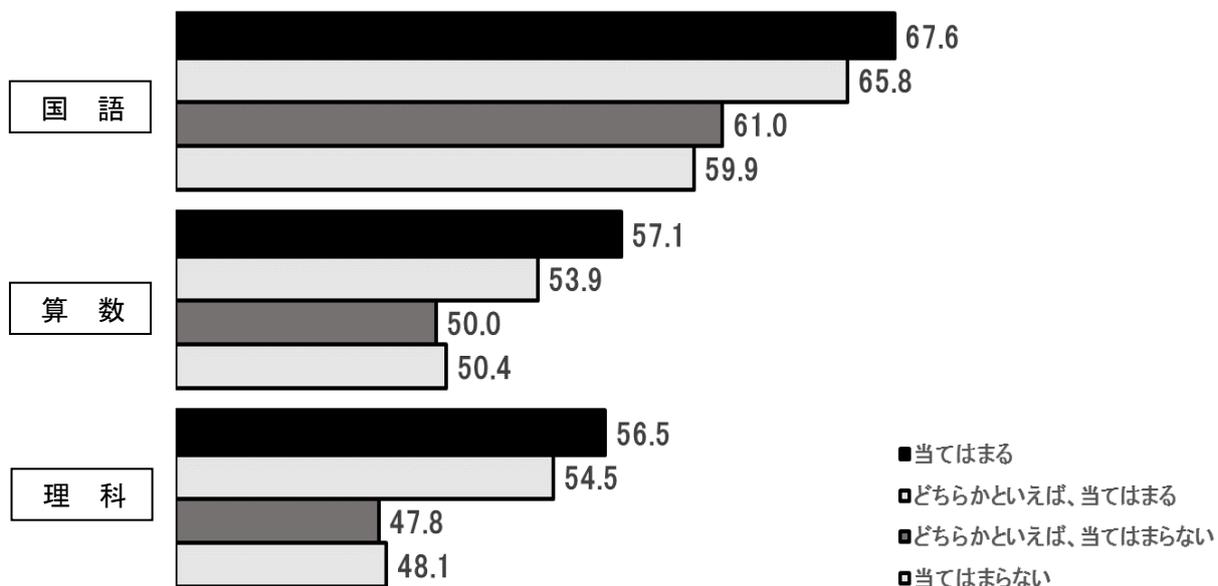


【中学校】

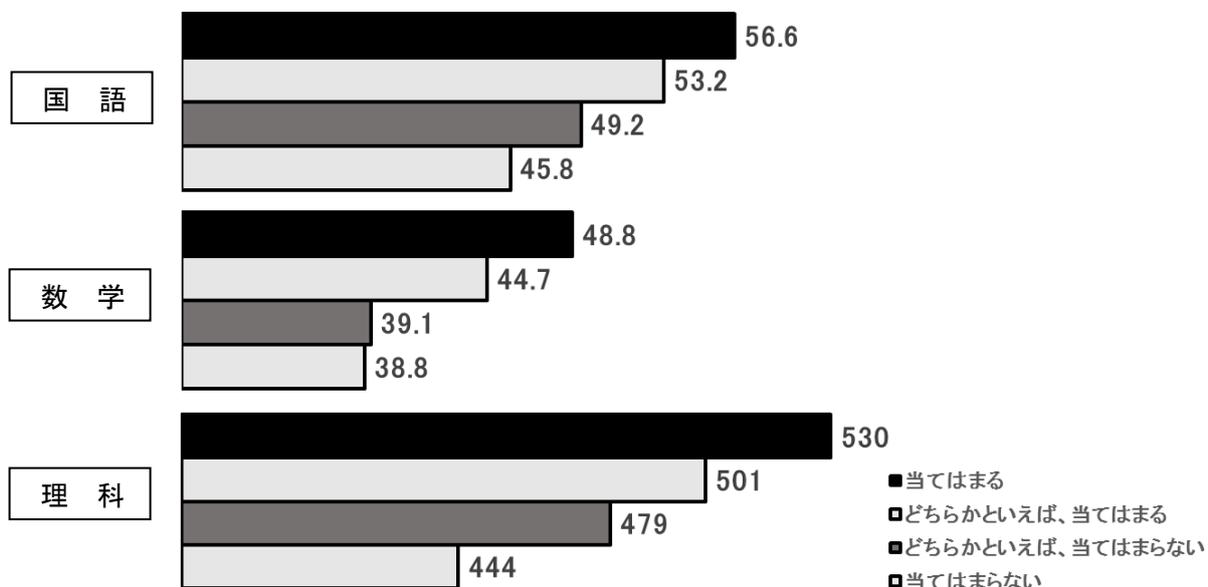


3 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率は高い傾向にあります。

【小学校】

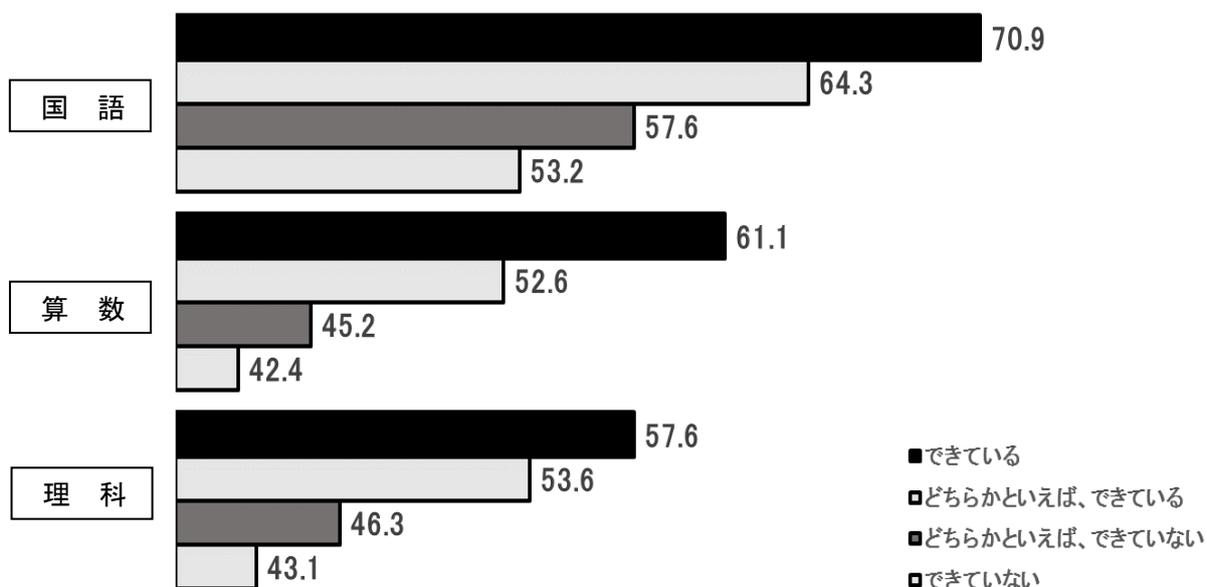


【中学校】

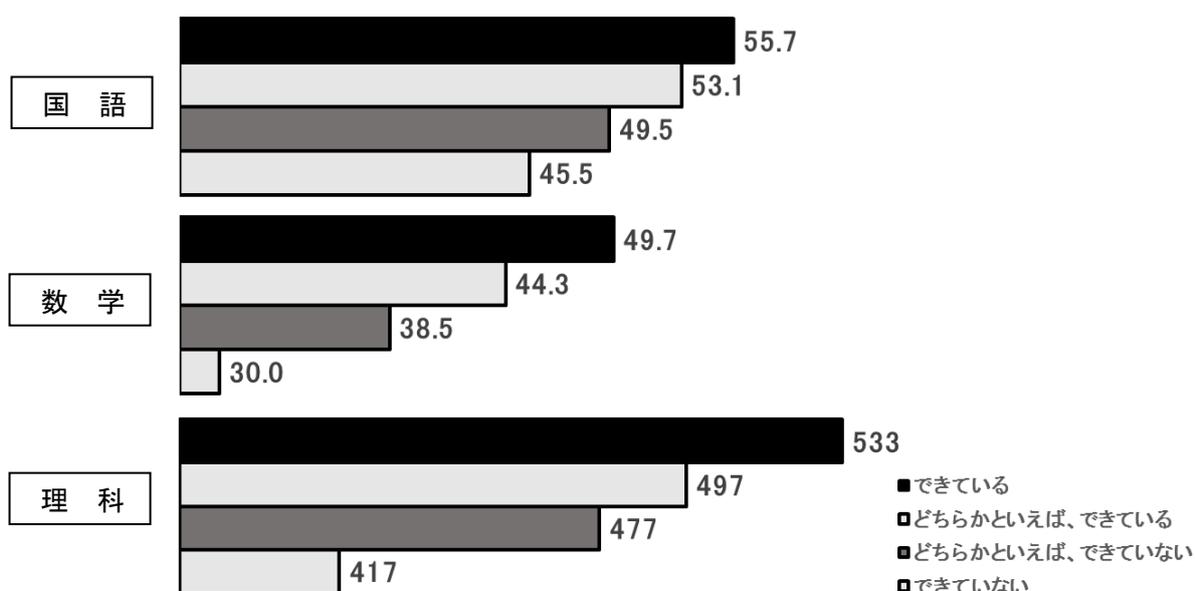


4 「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

【小学校】

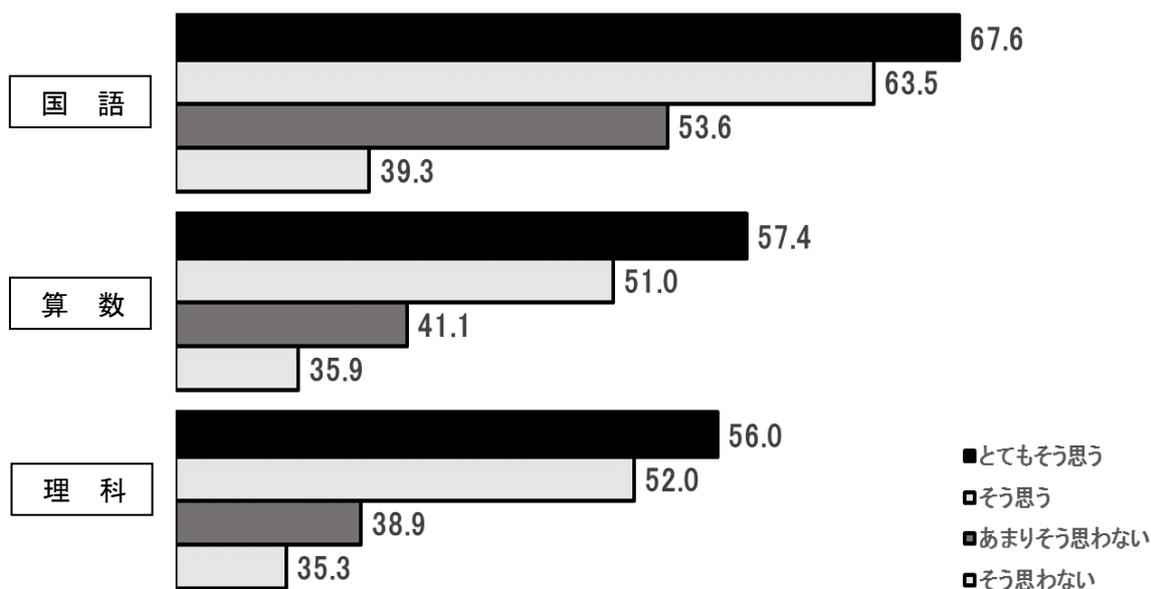


【中学校】

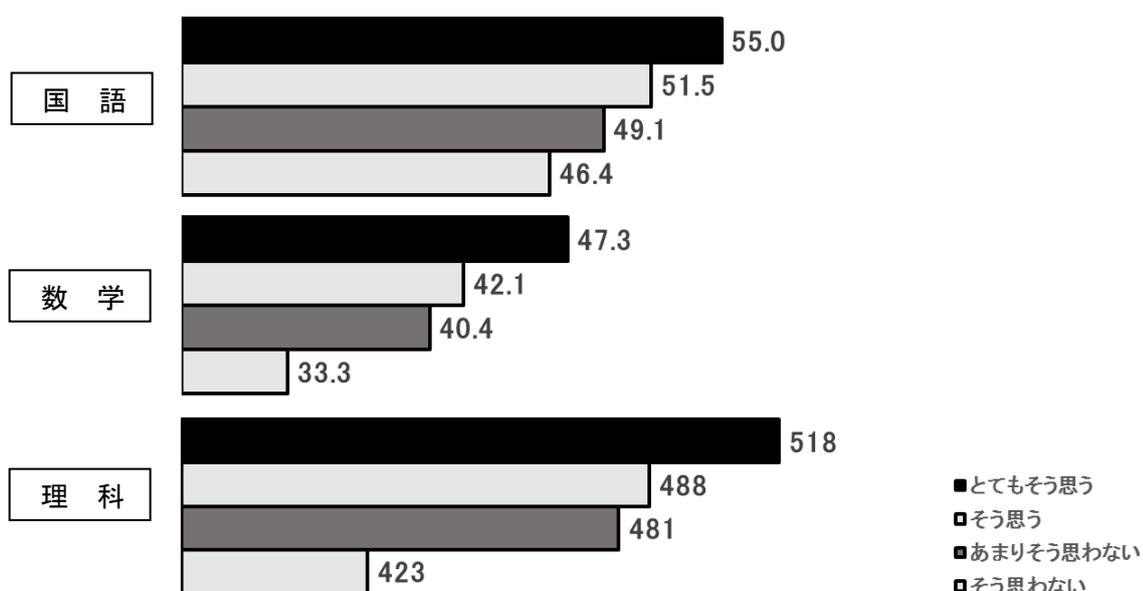


5 「あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率は高い傾向にあります。

【小学校】

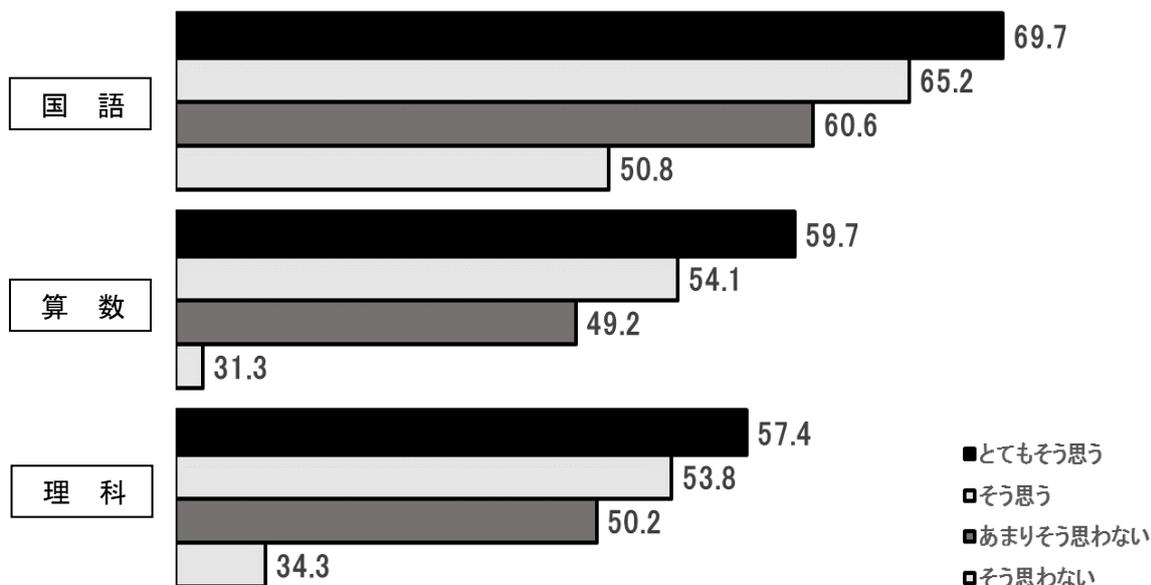


【中学校】

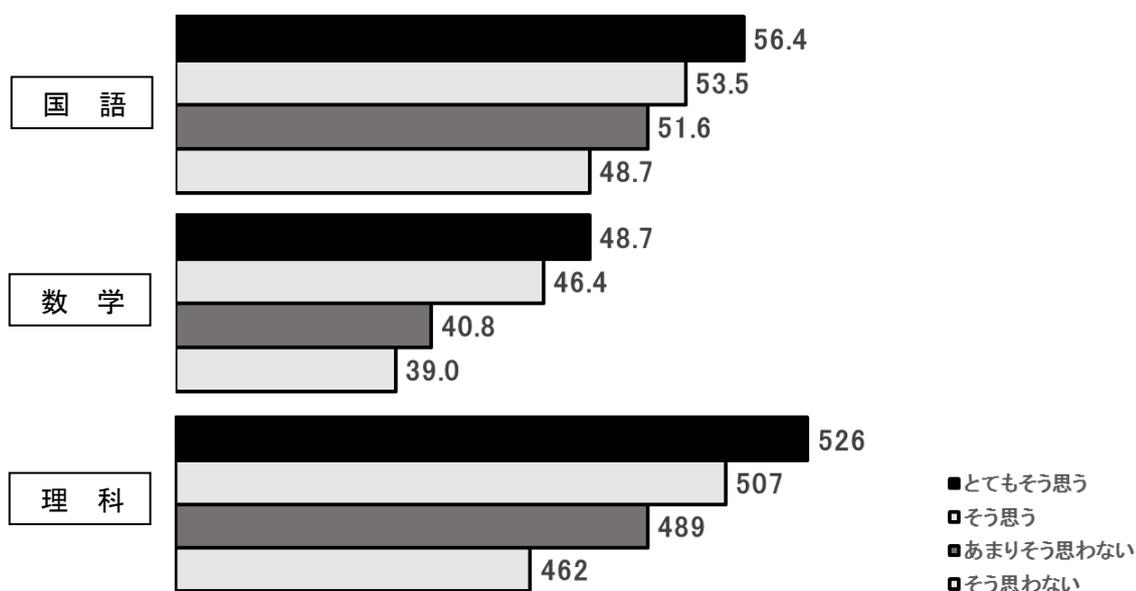


6 「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率は高い傾向にあります。

【小学校】

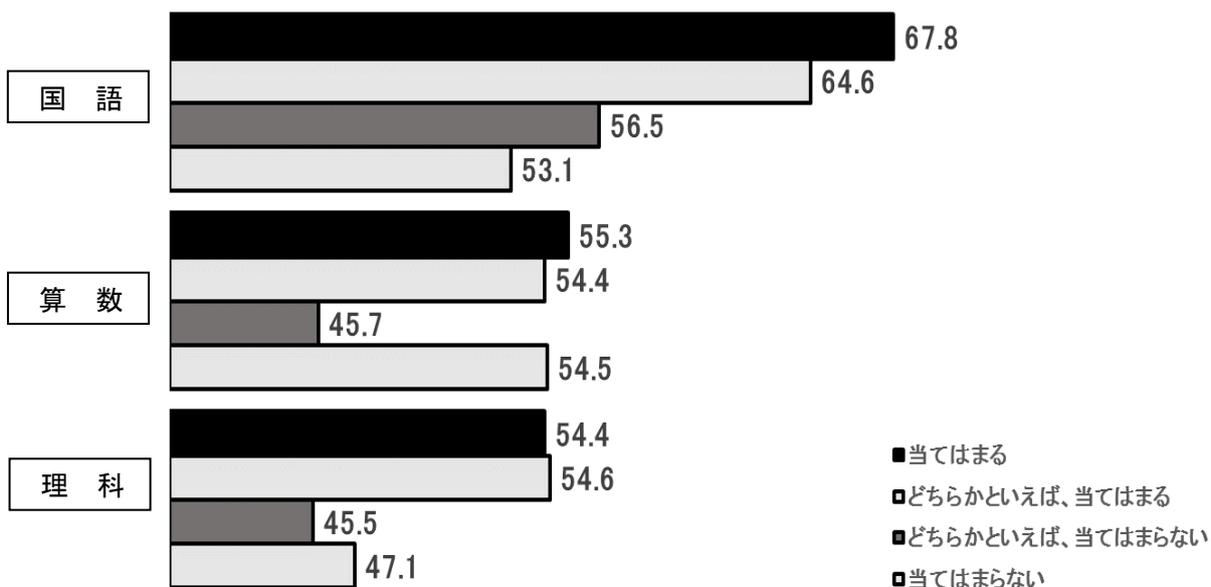


【中学校】

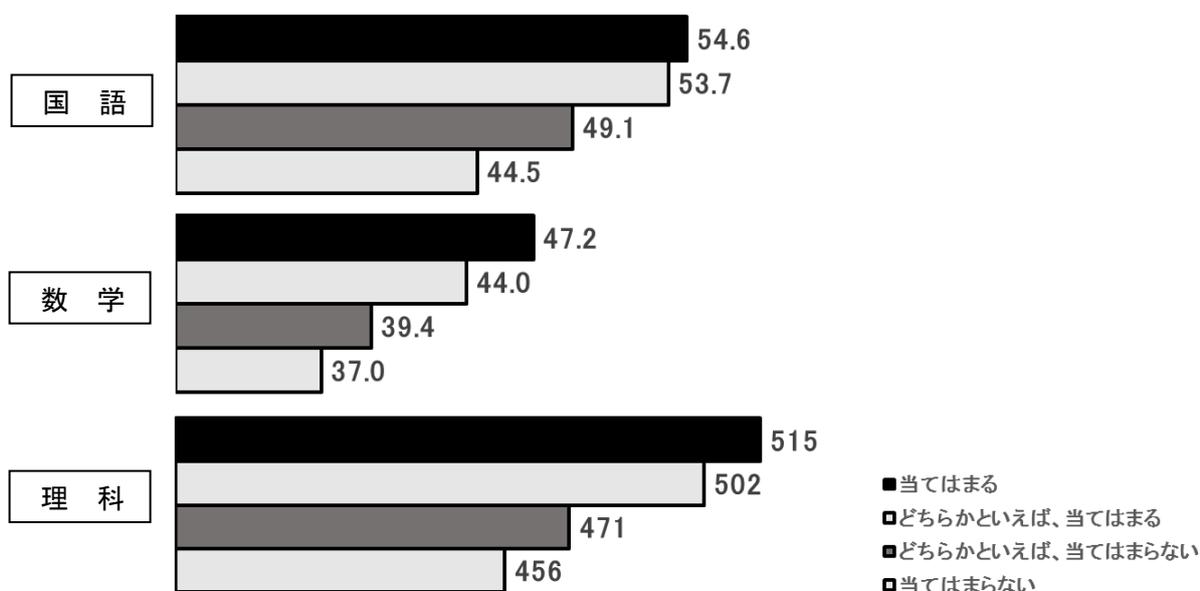


7 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

【小学校】

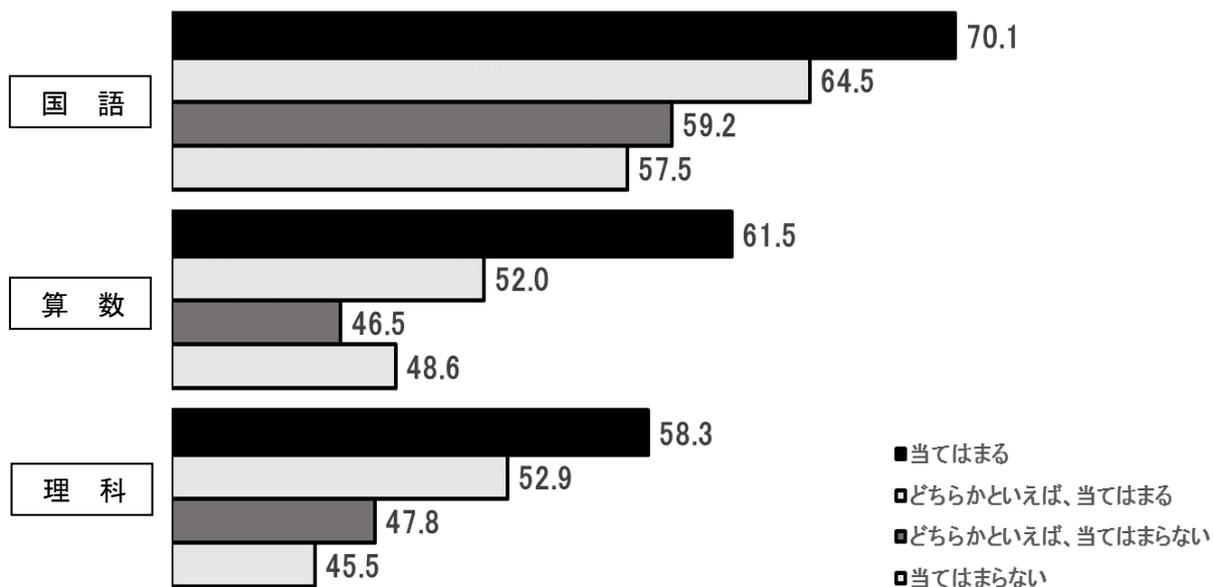


【中学校】

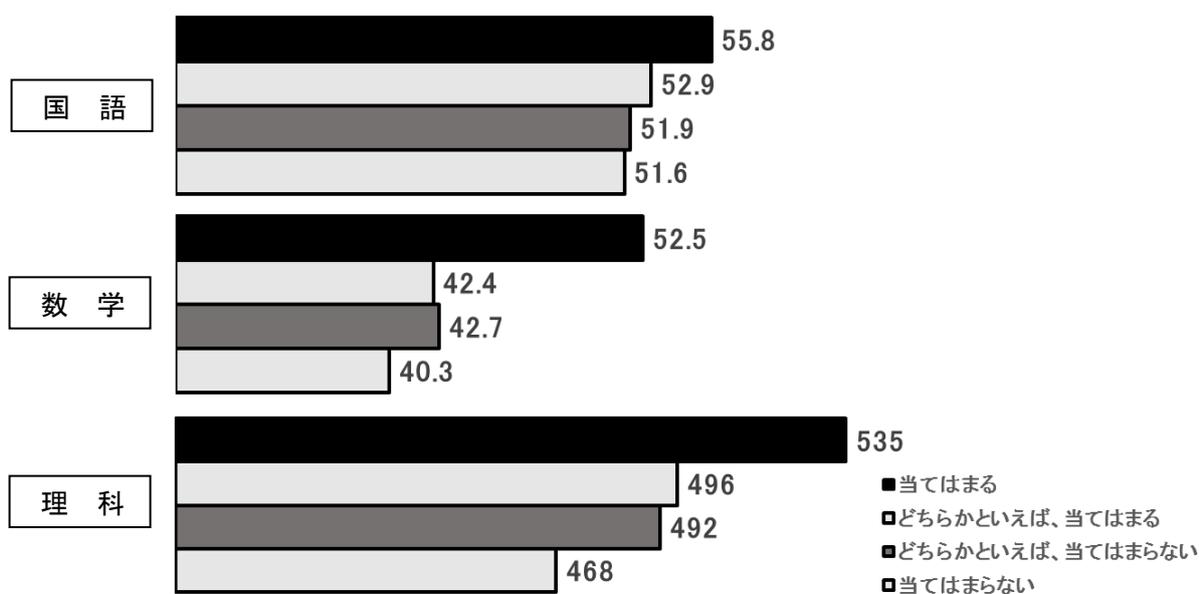


8 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率は高い傾向にあります。

【小学校】



【中学校】



V 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果を受けた取組

各学校の取組

1 安心して学べる学級づくり

教科の指導と生徒指導の一体化により、安心して学べる学級づくりを徹底し、児童生徒の学びに向かう姿勢を育むとともに、各中学校区における課題及びその要因を分析し、小中学校で足並みの揃えた指導を充実させます。

2 授業改善の推進

「小樽授業づくりの5つのSTEP!!」に基づき、1人1台端末を効果的に活用しながら、「子どもが主体的に学ぶ授業」を展開します。

3 家庭学習の習慣化に向けた取組

家庭学習時間を増やすために、国語と英語の音読に確実に取り組むとともに、必ず課題を出し、児童生徒が「学年×10分+10分」以上、その日に学習した内容の復習や学習の定着に課題が見られる内容などに繰り返し取り組ませ、必ず土日も勉強する時間を設けます。

4 生活習慣の改善に向けた取組

小樽市小中学校体力向上検討委員会が作成している啓発資料「朝ごはんでは体力アップ!」を活用するなどして、朝食を毎日食べる習慣の定着に向けて、家庭に協力を依頼するとともに、「生活習慣スケジュール表」などを活用し、子どもの生活習慣の改善に向けた意識を高めるように指導します。

市教委の取組

1 小樽市小中学校学力向上検討委員会の取組

学力向上実践交流会を開催し、定着に課題が見られる内容や領域の解決に向けた検討を行うとともに、安心して学べる学級づくりに関わる協議を通して、教科の指導と生徒指導の一体化を図る指導を充実させます。

2 授業改善に資する教員向け研修会の開催

外部講師を招聘した授業改善に資する研修会（国語、算数・数学、理科、体育、外国語）やICT活用に関する研修会を開催するとともに、若手教員の資質・能力向上に資する「共志塾」を開催するなどして教員の指導力向上を図ります。

3 学校訪問による個別の指導助言

各学校の課題と取組を把握し、安心して学べる学級づくり及び学力向上のための指導改善に向けて、個別に学校を訪問して「小樽授業づくりの5つのSTEP!!」に基づいた指導助言をします。

4 小樽市教育研究所の取組

研究員による全市公開授業や所報「還流」の発行を通して、本市の児童生徒の「確かな学び」を育む研究の推進について発信するとともに、調査研究活動事業指定校・団体による研究活動について指導助言します。

5 学習習慣及び生活習慣の改善に向けた取組

家庭学習の習慣化と生活習慣の改善に向け、保護者及び児童生徒向けの啓発資料を作成し配付するとともに、成果を上げている学校の事例を周知するなどし、学習習慣等の改善を図ります。

小樽授業づくりの5つのSTEP!!

～子どもが主体的に学ぶ授業～

基盤

安心して学べる学級づくり

- ①自己存在感の感受
- ②共感的な人間関係の育成
- ③自己決定の場の提供
- ④安全・安心な風土の醸成

単元構成

I 単元及び本時の目標と評価規準を明確にする

授業者は、単元を通して子どもにどのような力を身に付けさせたいかを明確にし、各時間における評価規準と評価の場面・方法を明らかにすることで、目標と指導と評価の一体化を図ることができます。

II 本時の課題をつかみ、学習の見通しをもつ

本時の目標を子ども自身が自分事として捉えることができるよう、課題設定や発問等を工夫することで、子どもが学習の見通しを持ち、主体的に学ぶことができます。

III 主体的に課題解決に向かう



自分の考えを持つ。



対話を通じて考えを深める。



授業者の一方的な説明ばかりではなく、子ども自身が「どのように学ぶか」を選択したり、自己決定したりする場を設定することで、主体的に学ぶことができます。

IV 学びの足跡を残す（ノート・端末）

学習の過程が分かるようなノート指導を行うとともに、端末を活用して学習の記録を蓄積していくことで、学んだことを振り返ることができ、学習内容の定着につながります。

V 学んだことを振り返る

学習した内容を振り返ることで、「何が身に付いたか」を子ども自身が認識するとともに、次の学習の見通しや生活場面への転換など、学びを深めたり、広げたりすることができます。

家庭学習の充実

「学年×10分+10分」以上
(中学1年生は「第7学年」とする)

- ・宿題（音読、漢字、計算、自主学習ノート等）の出し方について、学校全体や学年、教科間で共通理解を図る。
- ・家庭と連携し、達成感や自己肯定感を高めるための児童生徒への働きかけ（励ましやコメントなど）を意識する。
- ・Chromebookを持ち帰り、復習や定着に課題が見られる内容に繰り返し取り組む。



学習における1人1台端末活用例

- 前時までの振り返り
- ・ Classroom
- ・ 撮影した板書
- ・ スクリーンショットした画像
- など

- 教材の提示
- ・ スライド
- ・ classroom課題一斉配付
- ・ 画像等を提示
- など

- 調査活動
- ・ Google検索
- ・ Google meet
- 思考を深める
- ・ デジタル教材
- 表現・制作
- ・ スライド
- ・ サイト
- など

- 他者参照
- ・ スプレッドシート
- ・ スライド
- ・ Canva
- 発表・話し合い
- ・ ドキュメント
- ・ スライド
- 協働での意見整理
- ・ スライド
- ・ Classroom
- ・ Canva
- など

- 個に応じた学習
- ・ デジタルドリル
- 学習過程を蓄積
- ・ カメラ機能
- ・ スクリーンショット
- 振り返りの共有
- ・ Classroom
- ・ スプレッドシート
- など

- 家庭学習
- ・ デジタルドリル
- ・ スライド
- ・ Classroom
- ・ ドキュメント
- など